

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戸長役場ニ届出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未満ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ右奉 勅旨布告候事

○官吏準官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ感染又ハ死亡者手當金給與方 十九年七月十三日 關令第二

官吏准官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

一手當金ヲ分チ吊祭料救助料療治料ノ三種トス

一救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

一療治料ハ感染者治療費雜費トシテ之ヲ給ス

一吊祭料ハ年俸十二分ノ一若シクハ月俸一箇月分若シクハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル者ハ之ヲ給セス

一救助料ヲ分テ二等トス

一等 俸給五箇月分日給百五十日分

二等 俸給三箇月分日給九十日分

一感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス

一療治料ハ一日壹圓ヲ給ス但官ヨリ治療スル者ハ之ヲ給セス

○徽毒検査方法施設方 九年四月五日 内務省達 第四拾五號 府縣

傳染病母ノ最酷風ナルモノハ徽毒ヨリ甚シキモノ無之其禍源ハ専ラ娼妓賣淫ニ起因スレハ豫防ノ法ハ娼妓嚴密検査ノ

外無之娼妓賣淫嚴密検査場所ハ必検査方法施設可致處其方法モ無之取締不十分ノ向モ不尠哉之趣右ハ衛生上最緊要之

事ニ付篤ク注意致シ速ニ方法施設取締行届候様可致此旨相達候事

但從來施行致居未ク不届出分并ニ自今施設致候分共方法取調當省へ可申出申

○傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者費用地方稅衛生費ヲ以テ支辨方 十六年二月十四日 太政官達第八號 警視廳府縣(沖

細函館札幌根室 四縣ヲ除ク)

明治十四年四月第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以

テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

第四類 第四章 傳染病



●沿革要領

明治三年四月廿四日布告ヲ以テ種痘施行方ヲ府藩縣ニ令ス○四年十月文部省布達ヲ以テ大學東校ニ於テ種痘免狀并痘苗分與手續ヲ定ム○七年十月文部省第二十七號布達ヲ以テ種痘規則ヲ定ム○八年四月第四十九號達ヲ以テ種痘流行ノ節貧困ノ者救助概則ヲ定ム○九年四月内務省第八號布達ヲ以テ七年文部省第二十七號布達種痘規則ヲ廢シ更ニ種痘規則ヲ定ム○九年五月内務省第十六號布達ヲ以テ天然痘豫防規則ヲ定ム○十二年六月廿三號布告ヲ以テ虎列刺病豫防規則ヲ定ム○同年八月第三十二號布告ヲ以テ前令ヲ更正ス○十三年七月第三十四號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ傳染病豫防規則ヲ定ム○十四年四月第三十號達ヲ以テ八年第四十九號達ヲ廢シ流行病ノ節貧民救濟ニ係ル費用ハ地方稅衛生費ヲ以テ支辨セシム○十六年二月第八號達ヲ以テ前令ヲ改正シ傳染病ニ罹リ身元亦貧ニシテ資力ナキ者ハ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨セシム○十八年十一月第三十四號布告ヲ以テ種痘規則ヲ制定シ九年内務省甲第八號及甲第十六號布達ヲ廢ス

○檢疫停船規則

十二年七月 太政官布告第二十九號

明治十二年(七月)第二十八號布告海港虎列刺病傳染豫防規則別冊ノ通更正シ檢疫停船規則ト改稱候條此旨布告候事

檢疫停船規則

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンカマメ茲ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場ニ施行スルヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ令スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス  
第二條 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員

ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應シテ増減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差支ナキヲ以テ足レリトスヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正)  
都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院并ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ且場所并ニ停留セラレタル人ノタメ都テ必需ノ具ヲ備タル屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前検査ノタメ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少ナクモ二名派出シテ之ヲ検査スヘシ但右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ訊問ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正)

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應シ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船中船客又ハ乗組人ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐レアルトキハ其検査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ航海日記ヲ査閲シ乗組人及ヒ船客ノ人名錄ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスヲ得ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及其他ノ手



續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ證明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムルキハ該船ハ直チニ入港スルコトヲ得ヘシ軍艦ハ其艦長及醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該艦ハ検査ヲ經ス入港スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サ、ルトキハ檢疫停船規則ニ從フヘシ(同上ヲ以テ本條ニ追加ス)

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルトモ差支ナキヲ認ムルキハ此限ニアラス

右七日ノ期該船來著ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルキハ消毒法ヲ行ヒシ上速ニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ特ニ危險ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルコトヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ

定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以内艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシト無ク又ハ病毒感染ノ恐ナク且航海中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシト無キ旨ヲ明告スルキハ直ニ入港スルコトヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條ニ追加)

第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正)

船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反復施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ

患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ  
第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來著スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エサレハ其容體ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺骸ノ處置未タ濟マサルキハ其爲メニ設ケタル場



所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ設クル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ殘リタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ著港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルコトヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ陸揚配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ(十二年七月第三十號 布告ヲ以テ本條改正)

第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ヘシ 病院或ハ碇泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ

避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルコトヲ得ヘシ

第十三條 船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルコトナキ時ハ停留セラレタル人患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルコトヲ得ス

ヲ船中ニ停メ置コトヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サルコトアルヘシ

第十四條 檢疫停船規則施行ノ港ニ來著スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ源因ナラント思考スル疑似ノ病徵ヲ發スル者アルキハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラズ而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條款ヲ實施スヘシ(十二年七月第三十號 布告ヲ以テ本條改正)

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ル、毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フ可シ 又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルトキハ該船又ハ其乗込人及ヒ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内ヨリ上陸スル者アル時ハ他船ニテ到着シタル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其來著後成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ來著後十二時間ヲ過キテ検査ヲナサル時ハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐偽ニ出ツルカノ時ハ此限ニアラス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタル時検査ヲ爲スヘシ



第十七條 地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘク二十四時間ニ完了シ而シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ

然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ケノミノ消毒及ヒ検査ノ方法ヲ反復施行スヘシ(十二年七月第三十號 布告ヲ以テ本條改正)

第十九條 虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來著スル船舶検査消毒法患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ(同上)

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スヲ得ヘシ其場合ニ方リテ地方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與スヘシ

第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ往クヲ許サス

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ムキハ毎犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコトアルヘシ

此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ但シ罰金ハ科セサルヘシ

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則(無文) 罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ 十五年六月二十三日 布告第三十一號

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則左ノ通制定ス

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進港シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラズ

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直チニ其船舶ノ他港ニ進港シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

但檢疫官ニ於テ必用ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇泊



セシメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得(十八年第九號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ若シ縁故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ  
右奉 勅旨布告候事

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査手續十六年六月十四日 内務省達丙第三號警視廳沿海府縣(東京府ヲ除ク) 昨十五年大政官第三十一號布告 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則第五條ニ據リ該規則施行之義務者ヨリ相違候節内外國船舶トモ検査之義ハ左之手續書ニ據リ可取扱此旨相達候事  
虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査手續

一 船舶入港スルハ檢疫官少クモ二名連ニ其船舶ニ到リ(外國船ニ到ルハ英語通辯者一名ヲ伴ヒ且檢疫官タルノ證書各一葉ヲ帶有スヘキモノトス) 船長ニ示シタル後(虎列刺病流行地方ヨリ來レルヤ否ヲ問ヒ該地方ヨリ來レルモノハ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ同病ニ罹リシ死屍アラサルヤ否ヲ尋問スヘシ若シ必要ト認ムルハ自ラ船内ヲ巡檢スヘシ)

一 船舶航海中ニ於テ船内ニ虎列刺病患者若クハ其死屍ナキト信認スルハ(外國形船舶ノ多人數旅客ヲ搭載スルモノハ船長ニ要求シテ其船中ノ健康ヲ證明スル書面ヲ出サシメ) 直チニ規則第二條ニ據リ許可ノ證書ヲ船長ニ與フヘシ其患者若クハ死屍アルハ規則第三條ニ據リ之ヲ處置シ先ツ乗組人船客ノ上陸ヲ許可スルノ證書ヲ船長ニ與ヘ次ニ船舶積荷ノ消毒法至ク終リタル上ハ本條末項ニ據リ進航交通等ヲ許可スルノ證書ヲ船長ニ與フヘシ

但内海ノ諸港ヲ往復スル内國小蒸氣船及ヒ日本形小船等ノ如キハ別ニ簡易ノ検査手續ヲ設ケ之レニ與フル證書ハ必シモ乙號丙號ノ書式ニ據ラス簡易ノ證書式ヲ用フルモ苦シカラズ

一 内外國軍艦モ亦検査ノ手續ヲ爲スヘシト雖艦長及醫官ニ於テ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ其死屍ナキト證明スルハ其證明書ヲ要求スルニ止メ其患者若クハ死屍アルハ艦長及醫官ト協議ヲ遂ケ規則ニ準據シテ相當ノ處置ヲ爲スヘシ規則第二條及第三條許可ノ證書ハ共ニ交付スルニ及ハス

一 十五年第三十一號布告ノ全文ヲ英文ニ譯シ附寫若クハ印刷シ置キ檢疫官外國船ニ到ルトキハ之ヲ携ヘ行キ其艦長ニ一部宛交付スヘシ  
甲號證書式寸法堅大約六寸餘幅 大約八寸餘用紙適宜 表面

(其)港ニ到着スル船舶ノ船長ニ示ス

(其)府知事

縣令(又ハ警視總監)タル余ハ内務卿ノ命ニヨリ明治十五年六月二十三日附第三十一號布告 虎列刺病流行地

第四類 第四章 檢疫停船



方ヨリ來ル船舶検査規則ヲ施行センカ爲メ(何基)ニ命スルニ検査官タルノ任ヲ以テス該官ハ(基)港ニ到着スル諸船舶ノ虎列刺病流行地方ヨリ來リタルヤ否其航海中ニ於テ虎列刺病患者若クハ死屍アラサルヤ否ヲ船長ニ尋問シ且其船内諸人ノ健康ヲ證明スル證書ヲ船長ニ要求シ必要ト認ムルトキハ船内ヲ巡檢スルノ權ヲ有スルモノナリ

大日本帝國

年月日 (基)府知事 又ハ(警視總監)位勲氏名印

裏面

表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ

乙號證書式 寸法大約甲號ニ同シ用紙適宜

表面

(基)港ニ到着セシ 漁船(基)號ノ船長ニ交付ス

漁船(基)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來レルヲ以テ(基)港検査官タル余等ハ明治十五年六月廿三日附第三拾壹號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ據リ之ヲ検査セシニ其航海中ニ於テ虎列刺病患者及其死屍ナキ

ヲ信認スルヲ以テ該規則第二條ニ據リ直チニ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ストテ許可スルモノナリ

大日本帝國(基)府

年月日 (基)港

検査官 氏 名印

同 氏 名印

裏面

外國船ニ與フルモノハ表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ

丙號證書式 寸法用紙トモシ號ニ同クスヘシ

表面

(基)港ニ到着セシ 漁船(基)號ノ船長ニ交付ス

漁船(基)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來レルヲ以テ(基)港検査官タル余等ハ明治十五年六月廿三日附第三拾壹號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ據リ之ヲ検査セシニ其航海中ニ於テ虎列刺病患者幾人(又ハ死屍幾個)アリタルヲ以テ該規則第三條第一項第二項ニ據リ之ヲ處置シ乗組人船客ニ消毒法ヲ施行シ其上陸ヲ許可スルモノナリ(船舶積荷ニ消毒法ヲ施シタル後與フヘキ證書ハ該規則以下「該規則」第三條ニ據リ悉ク之ヲ處置シ總テ消毒法ヲ施行シ了リ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルヲ許可スルモノナリ)ニ作ルヘシ

大日本帝國(基)府

年月日 (基)港

検査官 氏 名印

同 氏 名印

裏面

外國船ニ與フルモノハ表面ノ全文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ

○夜間検査信號 二十一年九月

夜間検査信號左ノ通相定ム但當間検査信號ハ英國検査信號ニ依ル

夜間検査信號

一 検査船舶前櫓(船首碇泊燈)ノ位置ヨリ凡ソ五尺以上ノ高さニ於ル(ニ)於テ赤色球燈二箇各三尺ヲ距テ縱ニ連掲シ検査船舶ノ信號トス

一 船舶ノ進航ヲ止メントスルトキハ其入船ヲ見掛ケタル時大砲ヲ一發シ船ヲ止ムルノ信號トス

一 検査船舶碇泊ノ時ハ船首船尾ニ各一箇ノ碇泊燈ヲ掲ク

○虎列刺病流行ノ際検査所設置取計方

十三年三月十六日 内務省達シ第九號(東京警視本署)府縣

虎列刺病流行ノ際内地ニ於テ海陸ノ検査所ヲ設ケ行旅船客ヲ扣留候儀ハ經伺之上可取計儀ト心得此旨相達候事

第四類 第四章 検査停船



○虎列刺病流行地方ヨリ古着及襪履輸送ヲ禁ス 十八年九月十四日 内務省達甲第三十一號 警視廳府縣 虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及ヒ襪履ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ禁止スヘシ此旨相達候事

●沿革要領

明治十二年七月第廿八號布告ヲ以テ海港虎列刺病傳染豫防規則ヲ定ム○同年第廿九號布告ヲ以テ前令ヲ更正シ檢疫停船規則ト改稱ス○十五年六月第三十一號布告ヲ以テ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ヲ制定ス

○獸類傳染病豫防規則 十九年九月十五日 農商務省令第十一號

獸類傳染病豫防規則左之通制定シ明治二十年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年二月内務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本規則施行ノ

日ヨリ總テ廢止ス

獸類傳染病豫防規則

第一條 此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ

- 一 牛疫
- 二 炭疽熱
- 三 鼻疽及皮疽
- 四 傳染性胸膜肺炎
- 五 傳染性鵝口瘡
- 六 羊痘

第二條 獸類傳染病ニ罹リタルトキ若クハ其症候ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理者ハ其患畜ト健畜トヲ隔離シ獸醫ヲシテ患者及之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムヘシ

第三條 獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルトキハ所有者又ハ管理者ト連署シ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第四條 獸醫牛疫ト診斷シタルトキハ警察官吏及獸醫立會ノ上所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第五條 第四條ノ場合ニ於テハ三人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格ヲ定メ所有者ニ左ノ手

當金ヲ下付スヘシ

評價金二十五圓マテ 手當金評價十分ノ四

評價金五十圓マテ 同 十分ノ三

評價金百圓マテ 同 十分ノ二

評價金二百五十圓マテ 同 十分ノ一

評價金五百圓マテ 同 十五分ノ一

評價金千圓マテ 同 二十五分ノ一

第六條 獸醫傳染病蔓延ノ兆候アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ警察署及戶長役場ニ届出ツ

ヘシ

第七條 第三條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ニ於テハ其旨ヲ患者所在ノ近傍ヘ榜示スヘシ

第四類 第四章 獸類傳染病

五百六十七



第八條 傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルトキ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第九條 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其排泄物及之ニ觸レタル飼料褥草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニ於テ燒棄スルカ又ハ消毒法ヲ施シ深六尺以上ノ坑ヲ掘リテ埋没スヘシ

但埋没シタル場所ハ十二箇年ノ後ニアラサレハ發掘スルヲ得ス

第十條 傳染病畜及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其患畜ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フヘシ

第十一條 道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラサレハ轉移スルヲ許サス

第十二條 傳染病ノ流行ニ際シ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及斃牛馬化成ニ關スル營業ヲ停止スルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 第三條第六條第八條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直ニ所轄廳警視廳北海道廳府縣廳ヲ云フニ届出ツヘシ

第十四條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ管内及近接ノ地方廳ニ報告スヘシ(二十二年農商務省令第六號ヲ以テ改正)

但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直ニ其旨ヲ管内ニ報告スヘシ

第十五條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ届ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキ及管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報告ヲ得タルトキハ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出入往來ヲ停止スルヲ得(上同)

第十七條 牛疫蔓延ノ際ニ限り其患畜ニ接近シタルキハ假令健康ノモノタリトモ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ之ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金ノ金額ヲ下付スヘシ(上同)

第十八條 牛疫ヲ除クノ外傳染病蔓延ノ際ニ於テハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ其患畜ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スヘシ

第十九條 此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラス

○人家稠密ノ場所ニ於テ養養ヲ禁ス六年五月十五日 布告第百六十三號

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラ



ス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ糞糞ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退糞糞可致事

但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地ト雖モ糞糞不相成候尤乳汁搾取ノタメ糞糞候ハ被差許候得共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂事

○糞糞制限掛酌方 七年一月九日  
大藏省達第三號

昨明治六年第六十三號ヲ以テ公布相成候者專人命保護ノタメ市街等人家稠密ノ地ニテ糞糞候ヲ制限候者ニ候條山村俣呂等ハ實地適宜ニ斟酌可致此旨相達候事

●沿革要領

明治九年二月内務省七第二十號達ヲ以テ疫牛處分假規則ヲ定ム○同年三月同省七第二十四號ヲ以テ傳染牛疫豫防法並斃死處置方法ヲ定ム○十九年九月農商務省令第十一號ヲ以テ獸類傳染病豫防規則ヲ定ム九年内務省七第二十號達其他獸類傳染病ニ關スル從前ノ達類ヲ廢ス

第五章 墓地理葬 行旅死亡

○墓地及埋葬取締規則 十七年十月四日  
太政官布達第二十五號

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

第四類 第五章 墓地理葬



但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出  
ヘシ

右布達候事

○墓地及埋葬取締規則ニ違背スル者處分方 十七年十月四日 太政官達第八拾貳號警視廳府縣

今般第貳拾五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違背罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達  
候事

○墓地及埋葬規則細則標準 十七年十一月十八日 内務省達し第四拾號警視廳府縣ヘ達

本年第貳拾五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル

但已トイフ得サル事情アリテ之レヲ取廢メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ  
地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ雜ルコトヲ  
得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍 墓地ト非サルニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木掘斷ヲ存スヘカラサルモノ  
トス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭烟ヲ  
防クノ装置ヲナシ且周圍ニ塙牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日沒後之ヲ行フヘシ

第八條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナ  
リトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ズ管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勲爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ隨銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標  
ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘ  
シ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルキハ醫師ノ檢案ヲ提出シ區長又ハ  
戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死産證ヲ提出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ提出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ提出スヘシ

第十四條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十五條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許證ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ

第四類 第五章 墓地埋葬



戸長役場へ差出スヘシ

第拾四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ  
第拾五條 〔此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ〕十九年二月内務省達甲第  
五號ヲ以テ本條ヲ删除ス

○狼ニ墓地ヲ設クルヲ禁ス 六年十月二十三日 太政官達第三百五十五號(使)府縣

從來狼ニ墓地ヲ設ケ候儀ハ不相成候處今般私有地ノ證券相渡候上ハ心得違ノ者モ雖計ニ付耕地宅地ハ勿論林藪タリモ  
許可ヲ得スシテ新ニ墓地ヲ設ケ或ハ區域ヲ取崩ケ候儀可令禁止就テハ忽墓地差支候鄉村モ可有之候條管下一般諸寺院  
境内ヲ始其他永久墓地ニ定ムヘキ場所取調圖面ヲ副ヘ大藏省ヘ伺出此旨相達候事

○古墳ト見ユル地ハ狼ニ發掘ヲ禁ス 七年五月二日 太政官達第五拾九號府縣

上世以來御陵墓ノ所在未定ノ分即令取調中ニ付各管内荒蕪地開墾ノ節口碑流傳ノ場所ハ勿論其他古墳ト相見ヘ候地ハ  
狼ニ發掘爲致間敷候若差向聖廟ノ地ニ有之分ハ繪圖面相制教部省ヘ伺出此旨相達候事

○醫師患者死亡届 九年二月五日 内務省達第十三號各縣

管内醫師施治ノ患者死亡スル時ハ左ノ書式ニ準シ遺漏ナク區戸長ヲ經テ管廳ヘ爲届出半ケ年宛取纏メ八月ヲ限リ當省  
へ可差出此旨相達候事(十六年七月廿八號ヲ以テ居書ハ當省へ差出スニ不及旨ヲ達ス又戸長ノ下(若クハ  
醫務取纏)トアレド(醫務取纏)ハ十二年七月廿六號省達ニ依リ消滅ニ付除去ス)  
死亡届 料紙半紙  
二ツ折

何府何國何郡何町(九年七月百三十九號)  
何縣何國何郡何村(省達ニ依リ改正ス)  
何某父母兄弟妻子

病名 年號月日死

何業何職 姓名

年 齡

右ハ私施治ノ患者ニ候處死去候間此段御届申上候也

何府何大區何小區何町番地

醫師 姓名

年號月日

何縣令 何某職

○患者死亡届差出順序 九年四月一日 内務省達第十四號各縣

當省本年七月十三號ヲ以テ患者死亡届ノ儀相達候處右居書發出方順序醫師ヨリ直チニ差出候テハ數醫ノ施療ヲ受ケタ  
ル患者死亡ノ節醫師各自届出重複シ或ハ互ニ譲リ合等因相成候儀モ可生ニ付主任ノ醫師ハ必ラス届書ヲ死者ノ家人ニ  
付與スヘク家人ハ必ス之レヲ請求シテ該病家ヨリ(區戸長)ニ爲差出候儀可取計此旨更ニ相達候事(同上(戸長)ノ下(或  
クテ除)

○死亡届書ニ職業記載方 二十年十月二十七日 内務省達第二百二十四號府縣

本年二月七月十三號達(三府ヘ)同月八日相達候死亡届ノ儀往々書式ニ照準セス職業ヲ記載セサル書面有之元來死亡  
届ハ土地ト職業ニ原ツケル疾病ニ異同多少アルヲ查出シ豫防法研究ノ用ニ供候條向後例ヘハ大工ハ大工鍛冶ハ鍛冶其  
他總テ本人ノ職業ヲ記載スヘク此旨更ニ相達候事

●沿革要領

明治五年六月第百九十二號布告ヲ以テ自葬祭ヲ禁シ葬儀ハ神官僧侶ノ内ヘ可頼旨ヲ令ス○同月第百九十三號ヲ以テ  
自令氏子等神葬祭儀願ノ節喪主ヲ助ケ諸事可取扱旨神官ヘ布告ス○同年八月大藏省第百五十八號布告ヲ以テ人民所

第四類 第五章 墓地埋葬



持ノ耕地畔際等へ遺體ヲ埋葬スルヲ禁ス○六年七月第二百五十三號布告ヲ以テ火葬ヲ禁ス○同年十月第三百五十五號達ヲ以テ耕地宅地ハ勿論林藪タリト許可ヲ得スシテ新ニ墓地ヲ設ケ區域ヲ取崩クルヲ禁セシム○七年一月第十三號布告ヲ以テ自今教導職ノ單へ葬儀ヲ依頼スルコトヲ許ス○八年五月第八十九號布告ヲ以テ六年第二百五十三號火葬禁止ノ布告ヲ廢ス○同年六月內務省第七十八號ヲ以テ燒場取扱心得ヲ達シ遺骨ヲ場中ニ埋葬スルヲ禁ス○十四年十月內務省第七十八號達ヲ以テ敎院敎會所說敎所ニ於テ葬儀ノ執行ヲ禁ス○十五年一月內務省第七十四號ヲ以テ自今神道教導職其主神ヲ鎮祭シ其教徒ノ葬儀ヲ執行スル爲メ祠宇建設出願方ヲ達ス○同月內務省第七號達ヲ以テ神官教導職兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトシ府縣社以下ハ當分從前ノ通トス○十七年十月第二十五號布達ヲ以テ墓地及埋葬取掃規則ヲ定ム○同年十月第八十二號達ヲ以テ規則違背者處分方ヲ示ス○同年十一月內務省第七十四號ヲ以テ本年第二十五號布達第八條ニ記セル方法細目ノ標準ヲ達ス

○行旅死亡人取扱規則 十五年九月三十日 布告第四十九號

行旅死亡人取扱規則左ノ通制定ス

行旅死亡人取扱規則

- 第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキ所在戸長ハ之ヲ最寄墓地へ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ
- 第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルキ戸長ハ死亡ノ狀況并ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長へ通報スヘシ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルキハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルキハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條

死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルキ戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄揭示場へ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキハ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ  
但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルヲ能ハサルキハ直ニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルキハ之ヲ本籍へ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間〔戸長〕役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方稅雜收入ニ組入ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

●沿革要領

明治四年六月十七日布告ヲ以テ行旅ノ瘞病氣ノ節取扱方規則ヲ定ム○十一年十二月第五十五號達ヲ以テ前令第二條中地方官廳ヲ戶長役場ト改ム○十五年第四十九號布告ヲ以テ行旅死亡人取扱規則ヲ制定ス○同月第五十號布告ヲ以テ四年六月十七日布告行旅病人取扱規則ヲ廢ス



第五類

第一章 衛生 醫藥

○地方衛生會規則

二十年四月二十三日  
閣令第十號

地方衛生會規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治十二年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>太政官第五拾五號達地方衛生會規則明治十三年<sup>四</sup>月<sup>四</sup>太政官達東京地方衛生會規則ヲ廢ス

地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ  
會長 府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ  
委員

府縣第二部長

警部長東京ハ警視廳第一局長

第五類 第一章 衛生



府縣廳所在地ノ郡長又ハ區長

壹人

府縣會常置委員

三人

醫師

三人乃至五人

獸醫

壹人

化學家

壹人

臨時委員

書記 府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ具

申ス

第六條 會長事故アルトキハ開會當日出席人ヲ以テ其事務ヲ代理セシム

第七條 委員中東京府京都府大阪府ノ區長及醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス

但獸醫及化學家ハ其人ヲ得サルトキハ缺員ト爲スコトヲ得

常置委員ハ常置委員改撰毎ニ該員中ニ於テ互撰シ府縣知事之ヲ命ス

第八條 委員中官職ナキ者ニハ手當並ニ旅費ヲ給スルコトヲ得

第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス

●沿革要領

明治十二年十二月第五十五號達ヲ以テ地方衛生會規則ヲ定ム○十三年第六十二號達ヲ以テ前令第二條ニ但書ヲ追加

ス○同年四月番外達ヲ以テ東京地方衛生會規則ヲ定ム○二十年四月閣令第十號ヲ以テ更ニ地方衛生會規則ヲ定ム

○醫師免許規則

十六年十月二十三日  
布告第三十五號

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年二月第四號布達同年三月第二拾九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス  
但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツ  
ヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願  
出ツルトキハ内務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許  
ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ内務卿

ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者

第五類 第一章 衛生

五百八十一



ト雖其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○醫術開業試驗委員組織權限 二十二年五月六日勅令第六十二號

朕醫術開業試驗委員組織權限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十二號

醫術開業試驗委員組織權限

第一條 醫術開業試驗委員ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ醫術開業試驗ヲ行フモノトス

第二條 醫術開業試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

試驗委員長

試驗委員

宮内省侍醫

陸海軍軍醫

陸海軍藥劑官

帝國大學及高等中學校教官

其他醫師齒科醫及理化學家

書記 内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 試驗委員長及試驗委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 試驗委員長ハ醫術開業試驗一切ノ事務ヲ處理ス可シ

委員長事故アルトキハ内務大臣ヨリ委員中ニ就キ代理ヲ命スルコトアル可シ

第五類 第一章 衛生



第五條 試驗委員長ハ試験了ルノ後試験委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタルモノニハ直ニ及第證書ヲ與フ可シ但及第證書ニハ試験委員長試験委員連署ス可シ

第六條 試験委員長ハ試験了ルノ後其成績ヲ内務大臣ニ報告ス可シ

第七條 書記ハ醫術開業試験ノ事務ニ關シ試験委員長ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス

○醫術開業試験規則 十六年十月二十三日  
大政官布達第三十四號

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試験規則別冊ノ通り相定メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十二年二月内務省甲第三號布達同日ヨリ廢止ス  
右布達候事

(別冊)

醫術開業試験規則

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ

第二條 内務卿ハ毎年二回醫術開業試験ヲ舉行スヘシ但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六ヶ月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ

第三條 (二十二年五月九日内務省令第七號ヲ以テ削除)

第四條 (同上)

第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試験科目

第一 物理學 第二 化學

第三 解剖學 第四 生理學

後期試験科目

第一 外科學 第二 内科學

第三 藥物學 第四 眼科學

第五 産科學 第六 臨床實驗

第七條 齒科試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 齒科解剖及生理 第二 齒科病理及治療

第三 齒科用藥品 第四 齒科用器械

第五 實地試験

第八條 前期試験ハ一ヶ年半以上後期試験ハ更ニ一ヶ年半以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ二ヶ年以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス(十七年第二號布達)

第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期

試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ提出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ内務省ニ進達スルモノトス

但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス

第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ内務省ニ具狀スヘシ

内務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許サルコトアルヘシ

第十一條 試験問題ハ試験委員長試験委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ(二十二年五月九日内務

第五類 第一章 衛生



省令第七號ヲ以テ  
本條中ヲ改正ス

但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條

(同上)

第十三條 試験ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

第十四條 醫術開業試験ヲ受クル者ハ試験開場ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

前期試験手数料 金三圓

後期試験手数料 金五圓

齒科試験手数料 金五圓

第十五條 受檢中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試験ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セス

○試験ヲ要セスシテ醫師ノ免狀ヲ授與スヘキ者格例

十六年十一月十七日 內務省達シ第四十六號府縣

本年第三十五號布告醫師免許規則第三條ニ據リ試験ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及ヒ左ノ條件ヲ具ヘ當省ノ

特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限リ候條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其校則則及教員履歷書生徒員數

其他學校ニ關スル一切ノ書類取纏メ豫メ當省ヘ稟議スヘシ此旨相達候事

但明治十五年太政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟議ニ及ハス

一 三名以上ノ醫學士歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等其履歷ニヨリ本條ニ準スルヲ以テ教諭ニ充ルモノ

一 生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置クモノ

一 四年以上ノ學期ヲ定メ教則并ニ試驗法ノ完備スルモノ

一 生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ

一 器械標本ノ具備スルモノ

○醫術開業受檢人心得

十六年十二月十日 內務省告示甲第二十六號

今般太政官第三十四號ヲ以テ醫術開業試験規則布達相成候ニ付右受檢人心得左之通相定候條此旨告示候事

受檢人心得

第一條 醫術開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルヲ得ヘシ

第二條 醫術開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十四號布達醫術開業試験規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方

廳ヘ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試驗舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ届出ツ

ヘシ

第四條 試験手数料ハ試験舉行ノ前日迄ニ醫術開業試験場ヘ相納ムヘシ

第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルヲ得ヘシ

第六條 試験中一科以上欠席ノ者ハ其期ノ試験ヲ終フルヲ得ス(十七年十二月内甲第三十五號告示ヲ以テ全條ヲ改正ス)

願書式

醫術開業試験願

住所 寄留ナレハ本籍  
ヲ併記スヘシ

族籍

氏 名

年月生

右 氏 名 印

(戸長) 氏 名 印

五百八十七

私儀何年何月何地ニ於テ醫術開業前期(後期) 齒科ナレハ醫術ノ上齒科ノ二字 試驗相受度別紙書類相添此段奉願候也

年月日

右 氏 名 印



○從來開業ノ醫師ハ試験ヲ要セス鑑札等ヲ附與ス 十年八月十六日 内務省達シ第七十六號府縣  
 昨明治九年當省シ第五號ヲ以醫師試験ノ儀相達從來開業ノ者ハ試験ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫  
 術改進ノ基礎相立候處維新以來該術ヲ以テ諸官廳及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシテ醫藥若クハ教授ノ任ニ當リタル  
 者ハ志願ニヨリ試験ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ箇條ニ照觀シ本人ノ願書及履歷書ニ管廳ノ添書ヲ付シ可申出此旨相  
 達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得シモノ、外ハ總テ成規ノ試験ヲ遂ケ候條ト可相心得事

一 内務省警視病院醫員及ヒ舊警視廳醫員  
 但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ

一 陸軍省軍醫副及軍醫試補以上

一 海軍省軍醫副以上

一 文部省及海大學東校少得業生及ヒ醫學教官下醫當直醫以上並同省直轄諸學校醫員 皇漢醫道掛種痘  
 一 司法省及舊彈正醫醫員 箱掛ハ之ヲ除ク

一 宮内省六等侍醫以上及舊少典醫官權少侍醫以上

一 開拓使病院醫員

一 府縣病院及地方公立病院當直醫以上

○從前府縣ニ於テ下付ノ醫術開業ノ證ヲ所持スル者更ニ免狀附與 十七年一月二十一日 内務省達シ第四號府縣  
 從前府縣ニ於テ下付シタル醫術開業許可ノ證ヲ所持スル者ハ今般更ニ當省ニ於テ免狀授與可致候條此旨相達候

○引取人ナキ刑死者及囚徒ノ遺骸解剖方 十八年七月二十一日(文部卿連署)  
 監獄則ニ持クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ該  
 遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事

但屍體剖割ノ後ハ繼理シテ原體ニ復シ不都合無之候取計ハシムヘシ

○入齒齒抜口中療治療骨等營業ノ者開業及鑑札渡方 十八年三月二十三日 内務省達甲第七號府縣

入齒齒抜口中療治療骨等營業ノ者ハ明治十六年十月第三拾四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相  
 成候條從來之營業ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相達候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本分ノ手續ヲ爲スニ及ハス

○鍼灸術營業者取締方 十八年三月二十五日 内務省達甲第拾號府縣

鍼灸術營業者之儀ハ從來開業之者并ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履歷ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ茲  
 許不苦其取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相達候事

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

●沿革要領

明治四年十月文部省布達ヲ以テ大學東校ニ種痘局ヲ置キ種痘醫ニ免許狀ヲ與ヘ並痘苗分取方ヲ定ム○五年九月文部  
 省第二十九號達ヲ以テ東校ノ免許ヲ得タル種痘醫ヨリ授術セラレタル者ハ其管轄限リ施術ヲ免許セシム○七年十  
 月文部省第二十七號布達ヲ以テ種痘規則ヲ定メ施行免狀ヲ附與ス○九年一月内務省シ第五號達ヲ以テ醫師試驗法ヲ  
 定メ新ニ開業スル者ハ府縣ニ於テ試驗ノ上免狀ヲ授與セシム○同年四月内務省甲第八號布達ヲ以テ文部省制定ノ種  
 痘規則ヲ廢シ更ニ種痘規則ヲ定ム○十年八月内務省シ第七十六號達ヲ以テ維新以來官廳及地方公立病院ニ醫術ヲ  
 以テ奉職從事セシ者ハ試驗ヲ須ス免狀ヲ渡サシム○十二年二月内務省甲第三號布達ヲ以テ九年シ第五號達中醫術試  
 第五類 第一章 衛生



驗科目等ノ規則ヲ定メ該規則ニ抵觸セル指令等ヲ廢止ス○十五年二月第四號布達ヲ以テ自今文部省ノ認可ヲ得タル  
醫學校卒業生ハ試驗ヲ要セス開業免狀ヲ下付ス○同年三月內務省シ第十四號達ヲ以テ從來開業醫ノ子第ニシテ助手  
ト成リ醫業ヲ以テ家名相續ノ者ニ限リ試驗ヲ要セス開業許可ノ證ヲ付與スルヲ許ス○同年四月內務省シ第二十六號  
達ヲ以テ前令開業醫ノ子第ニ開業許可ノ證ヲ付與スルハ本年八月申限トシ右期限後ハ一切之ヲ許サス○同年八月  
第三十九號布告ヲ以テ醫師醫業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ其業ヲ停止シ又ハ之ヲ禁ス○十六年十月第  
三十五號布告ヲ以テ醫師免狀規則ヲ制定シ十五年第四號布達同年第三十九號布告ヲ廢ス○同年第三十四號布達ヲ以  
テ醫術開業試驗規則ヲ定メ十二年內務省甲第三號布達ヲ廢ス

○賣藥規則 十年一月二十日 布告第七號

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

別冊

賣藥規則

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ  
附シ販賣スルモノヲ云フ(十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正)

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳  
ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(十一年第二十七號布告ヲ以テ管轄廳ノ下八字ヲ削ル)  
但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘ  
シ(十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ  
生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ(十一年第二十七號布告ヲ  
ト改メ(毒藥)ノ下(劇  
藥)ノ二字ヲ加フ)

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ届  
出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ  
營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添へ其管轄廳へ願出免許鑑  
札ヲ受クヘシ(十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正シ十一年第二十七號布  
告ヲ以テ(鑑札ヲ受)ノ下十三字ヲ削リ(ク)ノ一字ヲ加フ)

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント  
欲スルハ其由ヲ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スベシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此  
期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ(十九年  
二十五日勅令第七十二號ヲ  
以テ(營業免許期限)ヲ廢ス)

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ  
月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖ヒ其製藥第三條ニ掲グル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營  
業



業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ  
(十一年第二十七號布告ヲ以テ(有害)ヲ(有害)ニ改ム)

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラレ、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ  
(十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正)

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ  
(十四年第二十六號布告ヲ以テ(賣藥營業者)ノ下(及ヒ請賣者)ノ五字ヲ削リ(右鑑札料)ノ次(賣藥請賣鑑札料)及ヒ(賣藥行前鑑札料)ノ二項ヲ加ス)

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一ヶ年

金貳圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚

金二十錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ

(十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ  
(十一年七號布告ヲ以テ(有害)ヲ(有害)ニ改ム)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ



無稽ノ妄説ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十四年第六號布告ヲ以テ(管業スル者)ノ下州又字ヲ追加ス)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○賣藥取扱手續 十年三月十二日 内務省達シ第三十二號府縣

- 本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雛形ニ照準取扱可申此旨相違候事
- 一 昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相違候迄免許發賣共當分替爲願出ニ不及規則公布後相違候鑑札同様相心得ヘシ
- 一 前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ儀ハ本年分ヨリ徴收スヘキニ付昨年九月マテノ分ハ納メシムルニ及ハス

但鑑札料ハ總テ上納爲我定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ

- 一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス(十年内務大藏兩省達シ第六十五號ヲ以テ本項ヲ追加ス)
- 一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商業致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑札交付取計フヘシ(同上達次項ヲ改正ス但既往ニ屬スルヲ以テ除之)
- 一 賣藥營業者並ニ請賣者免許看板ハ左式ノ通製セシムヘシ

鑿 三 尺

寸法同上

許 免	賣 藥 營 業	出 願	許 免	賣 藥 請 賣 業
中		中		

一 税金并ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納証ヲ添ユルノミニ該地差立大藏省主稅局ヘ進達スヘシ(十三年九月大藏省第七第三十六月迄ヲ七月二十五日限リト控立期限ヲ定ム)

一 十八年大藏省第七號達ヲ以テ本項中改正ス(十二號達ヲ以テ一月ヨリ但シ會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限リ該地差立同局ヘ進達スヘシ)

(同上達ヲ以テ全項ヲ改正ス)

- 一 行商鑑札ハ各管廳ニ於テ雛形ノ通之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ一々鑑札ニ記載スヘシ但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラズ營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スヘシ
- 一 行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都府明細簿ニ登記シ置キ毎半年分宛別ニ一本ヲ調製シ一月七月ノ兩度内務省ニ開申スヘシ(十四年第七號省達シ(達ヲ以テ次項ヲ削ル)
- 一 賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳雛形(十年内務大藏兩省達シ第六十五號ヲ以テ全項改正)



明治何年七月ヨリ同何年六月マテ賣藥營業稅收諸體札料仕上勘定帳  
賣藥營業願書式

明治八年當省シ第九十八號達離形ニ照準スヘシ

賣藥營業體札離形(十一年シ第七十號省達)  
ヲ以テ改正ニ付除ク

賣藥改正願書式(用紙美濃紙)

賣藥改正願

府大小區國郡村番地

營業人 族籍氏 名

一方名

藥品(分量)

製法

用法服量

功能

右者何年月日御検査済體札御下渡營業仕候處今般何々ノ應改正仕度御差支無之候ハ、體札御書替被下度此段奉願  
候也

一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

年月日

願 人 氏 名 印  
區長或  
戶長ハ醫務取締 氏 名 印

管轄廳長官氏名宛

賣藥請賣體札願書式(用紙同上)

賣藥請賣願

一方名

右營業人

府大小區國郡村番地

族籍氏 名

但營業者異ナレハ縱令一方タリ且必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ列ニ倣ヒ之ヲ區別シテ書記スヘシ  
右ノ賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者(御免許之御指令寫並約定書相添此段奉願候也

年月日

管轄廳長官氏名宛

賣藥請賣約定書

一方名

一同上

一同上

一同上

一同上

右者何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整ヒ候ニ付請賣者ニ於テ請賣體札ヲ願受營業者ノ製調シタ  
ル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者體札免許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル御規則及ヒ御達ノ趣旨ヲ遵守シ不正ノ所  
業致ス間敷候依テ約定書如件

年月日

府大小區國郡村番地

賣藥營業人 族籍氏 名 印

同

賣藥請賣人 族籍氏 名 印

第五類 第一章 醫藥







賣藥營業鑑札並請賣鑑札遺失之節書替願書式(用紙美濃紙)  
賣藥營業鑑札ハ賣藥請賣鑑札遺失ニ付御書替願

一方名

賣藥請賣鑑札ナレハ左之通認ムヘシ

一方名

右請賣人

府大小區郡村番地

賣藥營業人 族籍 氏 名

縣大小區郡村番地

賣藥營業人 族籍 氏 名

同

族籍 氏 名

右者何年月 確下記曉セサレハ 御下渡被下候 賣藥營業鑑札 何月日何々ノ事故ニテ 遺失仕候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年月日

賣藥營業人 氏 名 印  
或ハ請賣人 氏 名 印  
區長ハ醫務取締 氏 名 印

管轄廳長官氏名宛

賣藥營業鑑札渡願書式(用紙同上)

賣藥營業鑑札渡願

府大小區郡村番地

營業人 族籍 氏 名

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アル時ハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ  
右者何年月日御檢査済鑑札御下渡營業仕候處今般府族籍何某ヘ示談之上渡渡申度依テ所持之鑑札返納仕候間御書替換被下度此段奉願候也

年月日

府大小區郡村番地

賣藥鑑札主 族籍 氏 名 印

同

右請賣人 族籍 氏 名 印

鑑札主 區長ハ醫務取締 氏 名 印

所任ノ 區長ハ醫務取締 氏 名 印

但請賣人ノ管轄廳ニ出シ鑑札主ノ管轄廳ヘハ其旨ヲ届出ツヘシ

管轄廳長官氏名宛

○賣藥取扱手續 十一月十八日 內務省達シ第七十號府縣

本年九月太政官第二十七號ヲ以テ賣藥規則改正公布相成候ニ付テハ左之手續并鑑札ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

賣藥取扱手續

- 一 鑑札料紙ハ別紙鑑札形之通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ
- 一 右料紙ハ凡紙ヲ以テ毎半年期分宛一月七月兩度ニ受取方當省ヘ申立ヘシ
- 一 管廳ニ於テ鑑札ニ記スヘキ方名姓名番號等鑑札形之通記入押印之上下渡スヘシ
- 一 一家畜牛馬等ニ用ユル賣藥鑑札ハ亦輪廓之分ヲ用ユヘシ
- 一 免許期限内ニ於テ鑑札替換ヲ要スル分ハ其事由并ニ書換タル年月日ヲ鑑札裏面ニ記入下附スヘシ

第五類 第一章 醫藥







右者明治何年 一月ヨリ六月マテ 七月ヨリ十二月迄 賣藥營業並請賣行商共書面之通候也

年 月 日

府 縣 官 氏 名 印

○賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費支辨方 十四年四月二十六日 太政官達第三十二號府縣

賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費ノ儀ハ自今明治十三年四月第十六號布告第三條第七項ノ内ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○賣藥手續中請賣鑑札及行商鑑札並行商鑑札製作費ノ一項ヲ削除シ更ニ取扱方ヲ示ス 十四年四月三十日 內務省乙第二十五號府縣へ達

本年四月太政官第三十二號公達相成候ニ付テハ明治十年三月當省乙第三十二號達賣藥取扱手續中請賣鑑札料及ヒ行商鑑札料ノ廉並行商鑑札製作費云々ノ一項削除候條更ニ左ノ條項ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

一賣藥請賣及ヒ行商ニ地方稅ヲ賦課スルハ本年府縣會於テ其稅額ヲ議定シ十四年度ヨリ徵收スヘシ

一請賣鑑札料紙ハ自今大藏省ヨリ配賦不致候條各管轄廳ニ於テ從前雛形ノ通製造スヘシ

但大藏省ヨリ下付セシ鑑札所持ノ者ハ別段引替ニ不及且ツ本年分豫算ヲ以テ受取候料紙未用ノ分ハ同省へ返納スヘシ

一請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之答ニハ候得共或ハ營業者ノ藥方分並ヲ傳ハリ調製候向モ有之候ハ、改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルヘキモノニ付選ニ調製相止メ更ニ賣藥營業爲願出候條取計フヘシ

○賣藥行商鑑札表面記載方ノ件 二十一年六月十一日 內務省訓令第十三號北海道府縣

明治十年當省乙第三十二號達第八項行商鑑札表面自今左ノ書式ニ依リ記載セシムヘシ

賣藥營業者自ラ行商ノ分 賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業者 氏 名

一方名 一方名、一方名 氏 名

一方名 一方名

右行商開屆候事

賣藥請賣者自ラ行商ノ分

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業者 氏 名

賣子 氏 名

一方名 一方名 一方名 氏 名

一方名 一方名

右行商開屆候事

賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業人 氏 名

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥請賣營業 氏 名

一方名 一方名 一方名 氏 名

一方名 一方名

右行商開屆候事

●沿革要領

明治三年十二月廿三日布告ヲ以テ賣藥取締規則ヲ定メ大塚東枝ニ於テ管ス○五年五月第百四十二號布告ヲ以テ賦取蠲取藥等藥石ノ類ヲ加ヘタル賣藥ヲ禁ス○同年七月第二百二號布告ヲ以テ三年十二月廿三日布告賣藥取締ヲ廢ス○

第五類 第一章 醫藥



六年十二月第四百廿九號布告ヲ以テ賣藥取締ヲ文部省ノ管理トシ賣藥出願ノ者ハ該省ニ申出検査ヲ受ケシム○十年一月第七號布告ヲ以テ賣藥規則ヲ制定ス○十一年二月第四號布告ヲ以テ賣藥税金納方ヲ定ム

○藥品營業并藥品取扱規則 法律第十號

朕藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十號

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齢滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ願出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ内務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金一圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ處アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

第十五條 藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十六條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五類 第一章 醫藥



第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ  
第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ  
通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、  
年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試験所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零  
賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコト  
ヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノ

ニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性  
狀、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試験所ノ検査ヲ經其試験成績ヲ記スルモ  
ノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住  
所、氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコ  
トヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認マル者ニ  
ハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒  
藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二  
條ノ手續ヲ爲スヲ要セス



第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅旬語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ於テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 内務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 内務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ら診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ



第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年<sup>一</sup>第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキ届出方<sup>二十四</sup>内務省令第一號<sup>四月七日</sup>

明治二十二年<sup>三</sup>法律第十號醫品營業並醫品取扱規則第八條<sup>三</sup>免狀ヲ添付スヘク其死亡ニ係ル届出ハ戶主之ヲ爲ス

ヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

○藥品巡視規則<sup>二十二</sup>内務省令第四號<sup>三月二十七日</sup>

藥品巡視規則

第一條 衛生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ醫品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

第二條 監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品

二 藥品營業並醫品取扱規則第十二條第十三條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

三 調劑錄

第三條 監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品

二 藥品營業並醫品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

第四條 監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ検査スルコトアルヘシ

第五條 第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ検査スルコトアルヘシ

第六條 巡視ノ期日ハ豫メ告示セス其時間午前八時ヨリ午後五時迄ノ間トス

第七條 監視員ハ必要量ノ醫品ヲ携帶シテ検査スルコトアルヘシ

第八條 監視員ノ検査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

○藥品監視員巡視施行及費用等支辨方並證票雛形<sup>二十二</sup>内務省訓令第三十八號<sup>九月二十六日</sup>

明治二十二年<sup>三</sup>法律第十號監視員ノ巡視ハ同年<sup>同</sup>當省令第四號<sup>三</sup>依リ其廳ニ於テ施行シ且右ニ係ル費用<sup>監視員ノ俸給</sup>

及藥種商製藥者鑑札製作費ハ其廳經費定額内ヲ以テ支辨スル儀ト心得ヘシ

但監視員ノ携帶スヘキ證票ハ左ノ雛形ニ準シ其廳ニ於テ交附シ尚ホ之ヲ管内ニ告示スヘシ

紙製

曲尺二寸二分

表	裏
藥品監視員ノ證	廳 府 縣 名 印 廳

明治二十二年<sup>三</sup>法律第十號醫品營業並醫品取扱規則第三十五條ニ據リ毒藥劑藥ノ品目左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

○毒藥劑藥ノ品目<sup>二十二</sup>内務省令第五號<sup>三月二十七日</sup>

毒藥

磷

青酸(稀) 青酸(加) 里

亞砒酸(白) 砒石(礬) 石  
亞砒酸(了) ルセニツキ 亞砒酸(加) 留膜液 注列 氏水

第五類 第一章 醫藥



沃度化砒毒沃度化砒汞液度納般 沃度化砒素錫冠雄  
 黃色酸化汞黃降 赤色酸化汞赤降 昇汞猛汞 ソツビ白降汞 沃度化汞  
 猛毒アルカロイド及ヒ其鹽類  
 アコニチチ、亞刺莫兒比涅、亞篤必涅、アルチーネ、コニーネ、エメチーネ、比蘇斯知爾密涅エセソ 菲沃斯矢亞密涅、莫  
 兒比涅、ナルコチチーチ、ニコチーネ、必魯加必涅、斯篤里幾尼涅、勃拉篤里涅等  
 實美答利涅  
 クラーレ矢毒  
 加刺拔兒豆越幾斯篤拉屈篤  
 揮發苦扁桃油  
 巴豆油  
 劇藥  
 硫酸粗製硫酸、發烟硫酸  
 硝酸粗製硝酸、發烟硝酸  
 鹽酸粗製鹽酸  
 硝酸(王水)  
 石炭酸粗製石炭酸  
 格羅護酸及ヒ其鹽類  
 苛性加里及ヒ其瀉液  
 苛性曹達及ヒ其瀉液  
 強安母尼亞水

沃度、沃度丁幾丟兒、沃度仿護、沃度化加爾護、含糖沃度化鐵、沃度化鐵丸  
 貌羅護(臭素)貌羅護化樟腦  
 格魯兒化拔爾護、硝酸拔爾護  
 葎酸攝爾護、硝酸攝爾護  
 吐酒石及ヒ其製劑、酸化安知母紐護、硫化安知母紐護金硫  
 醋酸亞鉛、炭酸亞鉛、格魯兒化亞鉛、酸化亞鉛亞鉛、硫酸亞鉛華(皓蓉) 續草酸亞鉛  
 醋酸鉛(鉛糖) 次醋酸鉛液(鉛醋) 炭酸鉛 酸化鉛  
 醋酸銅、銅礬神効、硝酸銅、硫酸銅安母紐護鉛礬、硫酸銅(丹蓉)  
 甘汞、輕粉、黃色沃度化汞、硫酸汞、汞灰散、藍丸  
 硝酸銀、硝酸銀加硝石  
 亞硝酸亞密爾  
 呀囉仿護及ヒ其製劑(附コロゲン)  
 抱水格魯刺爾  
 知母爾  
 抱水格魯刺爾  
 知母爾  
 咖啡涅  
 古加し涅  
 珊倍寧及ヒ其製劑  
 劍度比爾林



苦扁桃水、杏仁水、老利兒結兒斯水、バクチ水  
 羯答利斯、斑猫、莞菁及ヒ其製劑  
 麥角及ヒ其製劑  
 印度大麻葉及ヒ其製劑  
 實答答利斯葉及ヒ其製劑  
 別刺敦那葉、根及ヒ其製劑  
 荳蔻葉、根及ヒ其製劑  
 菲沃斯矢亞騰斯葉、子及ヒ其製劑  
 蔓陀羅毒藥、子及ヒ其製劑  
 耶僕蘭日藥  
 魯別利亞葉及ヒ其製劑  
 サヒナ葉及ヒ其製劑  
 古魯聖篤實及ヒ其製劑  
 コニユール草及ヒ其製劑  
 刺苦委葛留膜及ヒ其製劑  
 佃答百兒加液  
 サヒナ油  
 揮發芥子油  
 阿片及ヒ其製劑  
 アコニツト根、雙齒菊烏頭及ヒ其製劑  
 附子ノ類  
 藜蘆根

吐根及ヒ其製劑(附挖物兒氏說)

薊刺巴根

薊刺巴脂及ヒ其製劑

古爾矢屈謨子、根及ヒ其製劑

サバヅルヲ子

番木鱈子及ヒ其製劑

巴豆

加刺拔兒豆

藤黃

日本産大茴香

○燐製ノ鼠取藥ヲ禁ス 十年三月二十二日 內務省達シ第三十六號府縣

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以テ賣藥トナシ候儀聞届鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用之虞ナキヲ免レス殊ニ本年太政官第二十號邊則藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相達速ニ鑑札返納可取計此旨相達候事

但請賣藥之モノモ同様賣藥規則ニ照シ禁止之處分可相達候事

○アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料取締方 十一年四月十八日 內務省達シ第三十五號府縣

近年アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ著色スルモノ不埒趣ニ候處右ハ自然人身之健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽チニ非命ノ横夭ヲ致スモノ有之危險ノ至リニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相達候事  
 追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然難致モノハ其原物相添當衛生局ヘ照會試驗ヲ受可申事

○繪具染料賣買取締方 十三年三月十七日 內務省達シ第十號府縣

第五類 第一章 醫藥



本年一月大政官第一號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣賣可致客ニ候係心得違ノ者無之様可取計此旨相違候事

○藥品其他検査手数料ヲ定ム 十七年十月十四日 内務省告示甲第二十七號

當省衛生局東京大試驗所ニ於テ舉行スル藥品其他ノモノ検査手数料左ノ通相定來ル十一月一日ヨリ徴收候條此旨告示候事

検査手数料

- 一 藥品
  - 一 容器 一瓶一ニ付金壹圓乃至五圓
  - 但大容器ノ藥品ヲ検査シタル上小容器ニ分チテ印紙ヲ貼付スルモノハ其小容器ヲ以テ一容器トス尤單ニ告示錢ヲ與フルモノハ其個數ノ多少ニ拘ハラズ金壹圓ヲ徴ス
  - 左ノ各項手数料ハ壹個毎ニ徴收スルモノトス
    - 一 飲水及氷雪 飲料適否鑑定 金拾錢乃至五拾錢
    - 一 乳汁 單簡ナル理學的検査并定性分析 金貳拾錢乃至貳圓
    - 一 酒類 定量分析 金五拾錢乃至貳圓
    - 一 飲食物 全全 金貳拾錢乃至貳圓
    - 一 大氣及有害性瓦斯類 定性定量ニ拘ハラズ 金壹圓乃至五圓
    - 一 食器中有害性金屬 定性分析 金貳拾錢乃至壹圓
    - 一 衣服料 定性分析 金五拾錢乃至三圓
    - 一 破泉 定性分析 金壹圓乃至拾圓
    - 一 顔料 定性分析 金貳拾錢乃至貳圓

- 一 玩具其他器出物中有害性性質 全
- 一 化學製品 定性分析 金貳拾錢乃至壹圓
- 一 破物及金屬 定量分析 金五拾錢乃至五圓
- 一 警察及裁判關係諸品 全 金壹圓乃至廿五圓
- 一 前各項外ノ諸品ハ其検査ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ相當ノ手数料ヲ徴收スヘシ 金五拾錢乃至五拾圓
- 一 右諸品時日ヲ限リ検査ヲ乞フモノハ試驗所ノ都合ニヨリ之ヲ許可スルコトアルヘシ然ルモハ普通検査手数料ノ五倍以内ヲ増徴ス可シ

○醫藥適用ノ藥品印紙貼用 十八年二月九日 内務省告示第五號

明治十年四月當省甲第七號布達司藥場藥品検査印紙ハ本月十五日限リ相繼シ爾後衛生局試驗所ニ於テ醫藥用ニ適スヘキモノト認メタル藥品ニ限リ左ノ印紙貼用候條此旨告示候事

○衛生試驗所藥品検査印紙 二十年六月二十日 内務省告示第二號

衛生試驗所ニ於テ醫藥用ニ適スヘキモノト認メタル藥品ニハ左ノ検査印紙ヲ貼用ス

但當分ノ内務省告示第二號

但當分ノ内務省告示第二號

但當分ノ内務省告示第二號





右印紙大中小最小形ノ四種トス

○衛生試験所ニテ検査印紙ヲ貼付スル藥品種別 二十三年三月十四日 内務省告示第九號

自今衛生試験所ニ於テ検査印紙ヲ貼用スルモノハ明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第二十六條第二十

七條ノ藥品トス但第二十七條第二項ノ藥品ハ検査ノ上良品ト認メタルモノニ限ル

○藥品、礦物、及金屬検査手数料改正 二十二年十一月七日 内務省告示第三十二號

明治十七年十月當省甲第二十七號告示藥品其他ノモノ検査手数料第一項及第十三項左ノ通改正シ來ル十二月一日ヨリ施行ス

- 一 藥品
- 一 礦物及金屬

一種ニ付箇數ノ多寡ニ拘ハラズ金五拾錢

印紙ヲ貼付スルモノハ別ニ一箇ニ付金壹錢ヲ徵シ印紙貼付ノ上仍ホ告示ヲ請求スルモノハ一葉ニ付金貳拾錢ヲ徵ス

定性分析金五拾錢乃至金三圓 定量分析金壹圓乃至金拾圓

○藥劑師試験規則 二十二年三月二十七日 内務省令第三號

藥劑師試験規則左ノ通之ヲ定ム

藥劑師試験規則

- 第一條 藥劑師タラントスル者ハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ
- 第二條 藥劑師試験ハ内務大臣ニ於テ毎年二回試験主事者及ヒ試験委員ヲ選任シテ舉行スヘシ其舉行ノ地及ヒ試験期日ハ六箇月前之ヲ告示スヘシ
- 第三條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 物理學
- 第二 化學
- 第三 植物學
- 第四 生藥學

第五 製藥化學

實地

- 第一 分析術
- 第二 藥品鑑定
- 第三 藥物製練
- 第四 調劑術

第四條 試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ試験期日三箇月前ニ内務省宛ニテ地方廳ニ提出スヘシ地方廳ハ試験期日一箇月前ニ之ヲ取纏メ内務省ニ進達スヘシ

第五條 試験ニ及第シタル者ニハ試験主事者ヨリ試験委員ト連署シタル及第證書ヲ與フヘシ

第六條 受験者ハ試験開場ノ前日迄ニ手数料金五圓ヲ試験主事者ニ納ムヘシ

第七條 受験上不都合ノ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 受験中疾病其他ノ事故アリテ試験ヲ完了セサル者及ヒ落第シタル者又ハ退場ヲ命シタル者ニハ手数料ヲ返付セ

ス

第九條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

○藥劑師試験受験人心得 二十三年二月十四日 内務省告示第七號

藥劑師試験受験人心得

第一條 藥劑師試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條 藥劑師試験ヲ受ケント欲スルモノハ明治二十二年三月内務省令第三號藥劑師試験規則第四條ニ據リ左記書式ノ願書ヲ居住ノ地方廳ヘ提出スヘシ

第三條 藥劑師試験願書ハ許可ノ指令ヲ付セサルニ付該出願者ハ試験舉行ノ期日四日前ニ受験地ニ到着シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ届出ヘシ

第五類 第一章 醫藥



願書式

六百二十二

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

右

氏名 生年月

氏名印

市長(三府ハ區長)若クハ町村長(市町村制ヲ實施セサル地方ハ戶長)

内務大臣宛

年月日

私儀何年何月何地ニ於テ藥劑師試驗相受度此段奉願候也

○藥品營業並藥品取扱規則ニ據リ届出テタル藥劑師廢業又ハ死亡者報告方 廿二年八月三日 内務省訓令第三

十四號

廳府縣

藥品營業並藥品取扱規則第八條ニ據リ届出タル藥劑師廢業又ハ死亡者ハ其年月日族籍氏名就免狀番號ヲ記載シ一箇月分取纏メ翌月十日限リ當省ヘ報告スヘシ

●沿革要領

明治七年十二月廿五日藥品賣買取締方ヲ三府ニ達ス○八年十月内務省甲第十九號布達ヲ以テ藥品ノ眞實檢査印紙ヲ定メ藥品ノ鑑定ヲ要スルモノハ同藥場ニ願出シム○十年二月第二十號布告ヲ以テ毒藥劑藥取扱規則ヲ定ム○同年四月内務省甲第七號布達ヲ以テ八年甲第十九號布達同藥場檢査印紙ヲ改正シ毒藥劑藥貼用方ヲ定ム○十三年一月藥品取扱規則ヲ定メ十年第二十號布告毒藥劑藥取扱規則ヲ廢ス○十六年五月内務省甲第八號告示ヲ以テ東京大坂横濱

三司藥場ヲ衛生局試驗所ト改ム○十七年十月内務省甲第七號告示ヲ以テ衛生局試驗所ニ於テ舉行スル藥品其他ノ檢査手数料ヲ定ム○二十二年三月十六日法律第十號ヲ以テ藥品營業並藥品取扱規則ヲ定メ十三年第一號布告ヲ廢ス

○石炭酸其他劇藥傳染病流行ノ際販賣ヲ許ス 十三年五月十五日 布告第二十三號

石炭酸其他劇藥ハ本年一第壹號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

●沿革要領

明治十年九月第六十九號達ヲ以テ流行病アル節ニ限リ水或ハ他藥ト混和シタル石炭酸硫酸ハ地方廳限リ販賣ヲ許可セシム○十三年五月第廿三號布告ヲ以テ石炭酸其他劇藥ハ傳染病流行ノ際内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製シタル分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣ヲ許ス○同月第三十號達ヲ以テ十年第六十九號達ヲ廢ス

○藥用阿片賣買並製造規則 十一年八月九日 布告第二十一號

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ追テ内務省ヨリ可相達事(同年内務省甲第七號ヲ以テ十二年五月一日ヨリ施行ノ旨ヲ布達ス)

藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ内國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ

第五類 第一章 醫藥

六百二十三



買上ケ地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ(廿年十月六日勅令第五十二號ヲ以テ本條ヲ改正シ廿一年一月一日ヨリ施行ス)

第三條 地方廳ヨリ拂下クル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼附スルモノトス(上同)

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ內務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコトヲ得(上同)

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルキハ其量目並ニ其住所姓名及年月日(病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副院長ノ姓名)ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名並ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ器業ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルヲ許サス

但內務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスルトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ(同上勅令ヲ以テ但書ヲ改正ス)

第五類 第一章 醫藥

六百二十五



第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒ子」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 內務省ニ於テ買上ケ及ヒ拂下クル阿片ノ「モルヒ子」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分以上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス(同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第十六條 此規則ニ違犯スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○阿片賣買並製造規則施行ニ付取扱方十一年十一月四日 內務省達シ第六十八號府縣

本月二日當省甲第二十七號ヲ以テ阿片賣買並製造規則施行ノ日限布達候ニ付テハ豫メ左件ノ通可取計此旨相達候事

一各管内藥舖營業者及ヒ阿片製造者ニ於テ現在所持ノ阿片ノ試驗ヲ要スルモノハ來ル十二月限リ最寄司藥場ニ提出ス可シ試驗ノ上相當ノ品ハ小器ニ分チテ印紙ヲ貼附シ之ヲ下渡シ若シ其買上ヲ望ムモノハ定價ヲ以テ買上ク可ク品位不相當ノ品ハ其理由ヲ記シテ持主ニ返附スヘシ

一阿片賣買並製造規則第四條ニ據リ各郡區ニ於テ阿片賣買ヲ特許スヘキ藥舖ヲ撰定シ其郡區町村番地姓名年齢ヲ詳記シ來ル十二月限リ申出ヘシ

一阿片製造人有之地方ハ同規則第十二條ニ據リ免許證札顯出サシムヘシ

○內國產濕潤阿片并粉末阿片價格ヲ定ム二十年十月十九日 內務省告示第五號

阿片製造人ヨリ買上クヘキ內國產濕潤阿片並地方廳ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下タル粉末阿片價格來ル明治二十一年一月一日ヨリ左ノ通相定ム

買上價格

濕潤阿片百分中九以上十分未満モ

百目ニ付金四圓五十錢

但「モルヒ子」含量十分以上ノモノハ本項ノ割合ニ依リ其價額ヲ増ス

拂下價格

粉末阿片モルヒ子」ノ含量十分至十一分ノモノ

壹匁入壹瓶ニ付金拾錢

○藥用阿片受拂手續ヲ定ム二十二年三月八日 內務省訓令第六號 北海道廳府縣

地方廳ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ル藥用阿片受拂手續左ノ通相定ム

藥用阿片受拂手續

一地方廳ヨリ阿片ヲ拂下クルハ明治十一年八月第二十一號布告第四條ニ據リ特許ヲ得タル藥舖ニ限ルモノトス但外國人藥舖ニハ開港開市場アル地方廳ニ於テ之ヲ拂下ク可シ

一地方廳ハ毎半年分阿片拂下ノ高ヲ豫算シ一箇年兩度ニ內務省衛生局へ請求ス可シ但缺乏ノ節ハ臨時之ヲ請求スルモ妨ナシ

一北海道廳ハ阿片ヲ內務省ヨリ受入シタルトキハ保管ノ轉管トシテ元受ヲナシ其保管及責任ハ物品會計規則ニ依ル(二十年二月二十日內務省訓令第五號ヲ以テ本項追加)

一地方廳ニ於テ阿片ヲ拂下クルトキハ其都度藥舖ノ住所氏名外國人ナレハ其國名トモ記スルヲ要ス 振收代價月日等詳細簿記シ置キ每一箇年會計年度 分離形ノ報告書ヲ製シ之ニ特許藥舖ヨリ差出シタル明細表並外國人藥舖ヨリ差出シタル書面ヲ添へ會計年度經過後二箇月以內ニ進達ス可シ 阿片受拂報告ハ明治二十一年度ヨリ差出ス可キモノトス

一地方廳ニ於テハ外國人藥舖ニ阿片ヲ拂下クルトキハ代價引換ニ現品ヲ拂渡ス可シ(二十三年三月十九日內務省訓令第十二號ヲ以テ本項中ヲ削除ス)

一特許藥舖ニ於テ阿片ヲ販賣スルハ內務省告示ノ價格ニ相當ノ手收料ヲ加へ販賣スルモノトス(報告用紙美濃野紙)

明治何年度阿片受拂報告

廳名

受入

第五類 第一章 醫藥







第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 獸醫免狀ヲ受クル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ

第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第八條 獸醫免狀ヲ受クル者ハ免狀下付ノトキ手数料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第九條 獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十條 免狀ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第十一條 第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ二年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

第十二條 禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十三條 免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 獸醫免狀試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條 第十四條ニ依リ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十六條 明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル規定ハ總テ廢止ス

○獸醫假免許手續

二十三年九月二日 農商務省訓令第四十四號 北海道廳府縣

明治二十三年八月法律第七十六號 獸醫免狀規則第十四條ノ獸醫假免許手續左ノ條項ニ依リ取扱フヘシ

但明治十九年十一月十二日 當省訓令第二十一號 假開業獸醫免狀手續ハ廢止ス

獸醫假免許手續

第一條 獸醫假免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

一 營業區域ノ廣袤及地勢ノ險夷

一 區域内牛馬ノ頭數

一 營業年限

第五類 第二章 獸醫附蹄鐵工



第二條 獸醫假免許區域内ニ於テ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免狀ヲ得タル獸醫ノ新ニ開業スル者アルトキハ免許年限中ト雖假免狀ヲ返納セシムルコトヲ得

第三條 獸醫假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○獸醫蹄鐵工各免許規則ニ依リ學則認可請求方 農商務省令第十八號

本年八月法律第七十六號獸醫免許規則第二條第三項及同年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則第二條第三項ニ依リ學則認可ヲ請ハント欲スルトキハ左ノ條件ヲ具備シタル願書ニ學校名學校ノ位置及地方廳ヨリ學校設立ヲ認可シタル年月日ヲ記入シ教員ノ族籍氏名年齢及履歴ヲ認メタル書類學則及學科授業時間表ヲ添付シ其ノ校長又ハ校主名ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ

但學則ノ認可ヲ受ケタル學校ノ校長又ハ校主ハ其ノ學校ノ卒業試驗終了ノ後十五日以内ニ地方廳ヲ經由シ卒業生ノ族籍氏名年齢及最終學期ノ試驗成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

一教員ノ員數及資格

一獸醫學校教員ハ三名以上トシ内少クモ一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

一蹄鐵學校教員ハ二名以上トシ内一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二學科目

一獸醫學校學科

動物學及理化學

病理學通論

解剖學及其ノ實習

產科學

動物疫論及警察法

病體解剖學及其ノ實習

三修學年限

一獸醫學校滿三年以上

一蹄鐵學校滿一年以上

○獸醫開業免狀同假開業免狀下付願書及開業試驗願書ノ件 農商務省訓令第三十九號北海道

農務省訓令第三十九號北海道

獸醫開業免狀同假開業免狀下付願書及開業試驗願書ハ自今副本差出スニ及ハス

生理學

藥物學

內科學

外科學

一蹄鐵學校學科

撰鐵、鍛鍊、造蹄鐵及造鐵釘

蹄ノ解剖、生理及病理論

法實習

家畜衛生論

蹄鐵學及其ノ實習

治療法實習

蹄鐵學及其ノ實習

○開業獸醫轉居届出方 農商務省告示第十五號

開業獸醫(假開業獸醫ヲ除ク)ニシテ明治二十二年十二月一日以後轉居セシ者ハ其都府直ニ當省農務局ニ届出ツヘシ

○蹄鐵工免許規則 二十三年四月三日

法律第三十一號

朕蹄鐵工免許規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第三十一號

第五類 第二章 獸醫附蹄鐵工

六百三十三



蹄鐵工免許規則

- 第一條 蹄鐵工ハ農商務大臣ヨリ蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ニ限ル
- 蹄鐵工トハ他人ノ依頼ニ應シ蹄鐵ヲ裝シ又ハ蹄ヲ剪ルヲ以テ其ノ業ト爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 蹄鐵工免狀ヲ受ケルコトヲ得ル者左ノ如シ
  - 一 蹄鐵工免許試験ニ合格シ其及第證書ヲ有スル者
  - 一 官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校又ハ陸軍部内ニ於テ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 一 獸醫開業免狀ヲ有スル者但獸醫假開業免狀ヲ有スル者ヲ除ク
- 第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ蹄鐵工免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試験及第證書又ハ卒業證書若クハ獸醫開業免狀ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第四條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ蹄鐵工籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 蹄鐵工廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 蹄鐵工免狀ヲ受ケル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

第七條 蹄鐵工免狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方

廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

書換ノ免狀ヲ受ケル者ハ免狀下付ノトキ手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ

第八條 蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 免狀ヲ受ケスシテ蹄鐵工ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條 蹄鐵工免許試験規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 蹄鐵工ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務

大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ蹄鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十三條 第十二條ニ依リ蹄鐵工假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十四條 此ノ規則施行以前免許ヲ受ケタル獸醫ニシテ蹄鐵工ヲ兼テント欲スル者ハ第三條ニ依リ蹄鐵工免狀ノ下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ免狀ヲ受ケル者ハ第六條ノ手数料ヲ要セス

第十五條 此ノ規則ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス



○蹄鐵工假免許取扱手續 二十三年七月十九日  
農商務省訓令第三十八號 北海道廳府縣  
明治二十三年四月法律第三十一號蹄鐵工假免規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ左ノ手續  
ニ依リ取扱フヘシ

蹄鐵工假免許手續

第一條 蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ蹄鐵工乏シキ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ  
具狀スヘシ

- 一 區域廣袤地勢及馬匹頭數
- 一 營業年限

第二條 假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

第六類

第一章 戒嚴令 徵發令

○戒嚴令 十五年八月五日  
布告第三十六號

戒嚴令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

戒嚴令

- 第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス
- 第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ
- 第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲ス者ナリ
- 第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ
- 第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス
- 第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等遽カニ合圍若クハ攻撃ヲ受ケル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得又戰略上臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得

第六類 第一章 戒嚴令



第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス(十九年十一月三十日勅令第七十四號ヲ以テ警備隊司令官若クハ分遣隊長ノ十三字ヲ加フ)

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申ス可シ

但其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ彙ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第九條 臨戰地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條 合圍地境内ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衛

ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

第三編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 毆打創傷ノ罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第六類 第一章 戒嚴令



第八節 洪水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境内ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衛ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境内ニ於ケル軍衛ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 戒嚴地境内ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルコト

第二 軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ検査シ時機ニ依リ押收スルコト

第四 郵信電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ検査シ並ニ陸海通路ヲ停止スルコト

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壞燬燒スルコト

第六 合圍地境内ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り検査スルコト

第七 合圍地境内ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコト

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其効力ヲ有スル

者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

○法律規則中戰時ト稱スル場合 十五年八月 第三拾七號布告

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス 右奉 勅旨布告候事

●沿革要領

明治十五年八月第三十六號布告ヲ以テ戒嚴令ヲ制定ス○十九年一月勅令第七十四號ヲ以テ前令中ヲ改正ス

○徵發令 十五年八月十二日 布告第四拾三號

徵發令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第六類 第一章 徵發令



- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長
- 第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區會社モ之ヲ定ムルコト左ノ如シ
  - 一 第十二條第一項ハ 府縣
  - 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區
  - 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村
  - 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ瀛車ハ 會社
- 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル
- 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ
- 第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス
- 第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費

- 用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ
- 第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ
- 第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ
  - 一 米麥秣藪鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
  - 二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
  - 三 人夫
  - 四 宿舍厩園及ヒ倉庫
  - 五 飲水石炭
  - 六 船舶
  - 七 鐵道汽車
  - 八 演習ニ要スル地所
  - 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲グルモノノ外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス



- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工俵ニ要スル材料器具
- 二 職工礦夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具草鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及細帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
- 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋

六 博物館書籍館

七 病院盲啞院棄兒院

八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス

九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス厥國倉庫亦同シ



第二十二條 宿舍既圖ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ解船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變

ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラズ若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

- 一 西洋形船舶 七日間
- 二 地所 評價委員ノ告示スル時日間
- 三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取

リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ賃價及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ



官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乗載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ艀船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス



第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲安ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ怠納者處分方及右費用ニ關シ不服アル者出訴方 十六年八月八日 布告第三十一號

徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年十一月第七十九號布告ニ依リ處分ス可シ但財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ル可シ

右奉 勅旨布告候事

○徵發事務條例 十五年十二月十八日 大政官布達第二十六號  
徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム  
右布達候事

(別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規程ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限リ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖正軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長 士官以上ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖正其部下ノ團隊若クハ各艦往返演習ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限リ其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス (二十三年九月三日勅令第百九十六號ヲ以テ追加)

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ遠セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人二人 其町村スル親族又ハ預リ主又ハ同物品管立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ業者ノ内ヨリ戶長ノ撰定スルモノ

第九條 徵發課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ



物件及第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限リ場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得(二十三年九月三日ヲ以テ)勅令第九十六號追加)

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タズ速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ海陸軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアルヘシ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ數收ヲ陸海軍官憲ニ報告スヘシ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ

證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲グル受領證票ハ附録第二號雖形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵發令後之ヲ交付ス可シ但徵發令後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲グルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲グルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ井ニ同令第十二條第六項ニ掲グルモノ浮船及ヒ船ヲ借切トシテ徵發スルトキハ特ニ本人若クハ操縦者ニ受領證票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵發令第十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲グルモノハ徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陷ヒラサシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一營業者所有ノ物品ハ徵發令ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三秣芻ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附録第三號一ノ雖形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ(十九年五月十四日開令十號ヲ以テ本條ヲ改正ス)鐵道局長及鐵道會社社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ雖形ニ依リ毎年十二月三十一日開ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送付スヘシ又新タニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ(同上)追加)



第二十二條 (同上附令ヲ以テ)

第二十三條 (本條ヲ刪除ス)

第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ三箇年毎ニ附録第三號ニ三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ送付シテ

ル表ト共ニ翌年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ(同上)

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附録第四號一ニ三ノ雛形ニ依リ西洋形船舶器械製造修繕場表日本式西洋式鑄造場

表旋盤三齋以上装置鐵工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ(同上)

北海道廳長官府縣知事ハ附録第五號一ニ二ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ニ送付シ管内ニ於テ

新造シ若クハ買入レタル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルトキハ第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々海軍省ニ

送付スヘシ但海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直チニ送付セシムルコトヲ得(同上)

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲グルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモ

ノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲グル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得又出船

ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵發令第十二條第六項ニ掲グル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得又出船

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店

舖農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸座敷等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノ

ヲ概定スルコト左ノ如シ

一 廳署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋

二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋

三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室

四 士官又ハ同等軍屬二名 一室

五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊

六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半

七 徵發ニ應シタル人員三名 二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿副主任官ニ附隨シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等ヲ

ルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲グル日限ヲ更新スル

モノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率于左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量

以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一茶漬物 午飯一茶漬物

二馬 駐軍中 朝大麥二升秣五百目 晝秣五百目 晝秣五百目 夕大麥二升秣五百目 晝秣五百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣五百目 晝秣五百目

小麥ヲ大麥ニ喰糞ヲ秣糞ニ代用スルトキ 朝小麥一升喰糞一貫目 晝小麥五合 夕小麥一升五合喰糞二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰糞ヲ秣糞ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升喰糞一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕

搗麥又ハ裸麥二升喰糞一貫目

寢糞ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢新炭每室ニ一個ヲ

給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第六類 第一章 徵發令

六百五十五



第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ、公有家屋社食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ証アルトキハ戸長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乗取人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戸長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乗取人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定貨ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコトヲ得(同上)改正

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送費ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ(同上)改正

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證書ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲グルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又賠償ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ賠償ノ

二字ヲ記載スヘシ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領證書ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ遺算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタル官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セントキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セントキハ戸長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セザルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戸長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作リ供給者ノ請求金額ヲ其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由買況并ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲グル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラズ但シ被災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其被災厄難ヲ免シタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雜形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限り陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲ニ第六類 第一章 徵發令 六百五十七



臨時ニ購買セサル以前ノ貨價ヲ言フ

徵發令中平常ノ貨價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及第三十八條ニ掲クル平常ノ貨價原貨價ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ貨價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航泊費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航泊中現ニ消耗シタルモノハ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セズ但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村ノ居民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノヲ熱達シタルモノノナキトキハ他二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依リテ決ス

鐵道會社船舶會社三屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ採用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ撰舉ス可キモノトス

其撰舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其撰舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ通過ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價格ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由

二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何書類ニ依リタカ何圖面何書類ニ依リタカ金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ其季ノ收穫皆其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟又ハ實測シタル歟金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ無タルニ依リ何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ全部收穫ノ前肥料ヲ扣除シタル歟又承存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收買ニ止マルトキ枝幹ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作リ陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄 (第一號ヨリ第七號ニ至ル表式ハ之ヲ參ス)

○徵發令第十二條第二項ノ乘馬駝馬駕馬車輛并屬具ノ員數差出方 十九年十二月二十八日 陸軍省訓令甲第二號府縣

徵發令第十二條第二項ノ乘馬駝馬駕馬車輛並ニ屬具ノ員數入用係左ノ項目ニ依リ取調左ノ表式ノ表面ヲ製シ來二十年二月二十八日迄ニ無過期所管領盡ニ提出スヘシ

但徵發令第十四條並ニ乘馬飼養令ニ據リ飼養スル馬匹ハ調査ヲ要セス

第一 馬 乘馬 駝馬 來二十年々齡五歲以上十六歲未滿ノモノニシテ第二項ヨリ第四項ニ適當ノ者ヲ合格トシ其他ノ者

第六類 第一章 徵發令 六百五十九



ヲ不合格トシ調査スヘシ

但年齢ハ生年ヲ一歳トシテ計算スヘシ

第二 乘馬ハ身幹四尺五寸曲尺以上ニシテ現在乘馬ニ役スルモノ又ハ曾テ乘馬ニ役セシ者ヲ算入スヘシ

第三 駄馬ハ身幹四尺三寸以上ニシテ現在駄馬ニ役スルモノ又ハ曾テ駄馬ニ役セシ者ヲ算入スヘシ

但現在耕馬ニ役スルモノ又ハ曾テ耕馬ニ役セシ者ハ本項ノ駄馬ニ算入スヘシ

第四 駕馬ハ身幹四尺五寸以上ニシテ現在駕馬ニ役スルモノ又ハ曾テ駕馬ニ役セシ者ヲ算入スヘシ

第五 車輛ハ二輪又ハ四輪ノ人乘馬車荷馬車ノヲ駕シ得ルモノニ限ル又器具完全ニシテ數日ノ運轉ニ耐ユルモノヲ甲トシ  
器具完全ナラサルモノ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査スヘシ

第六 器具ハ馬具鞍轡<sup>附屬</sup>ニ限ル又其材料完全ニシテ數日間ノ使用ニ耐ユルモノヲ甲トシ材料完全ナラサルモノ一時ノ用  
ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査スヘシ

明治何府馬匹員數表

郡	區	種別	合		不		合		格
			五歳以上十六歳未満	五歳未満	十六歳以上	四尺三寸未満			
			乘馬一駕馬一駄馬	乘馬一駕馬一駄馬	乘馬一駕馬一駄馬	乘馬一駕馬一駄馬	乘馬一駕馬一駄馬		
			牝	牝	牝	牝	牝		
			牡	牡	牡	牡	牡		
			計	計	計	計	計		

考備

明治何府馬車員數表

郡	區	種別	甲		乙	
			人乘馬車	荷馬車	人乘馬車	荷馬車
			二輪車	四輪車	二輪車	四輪車
			一頭引	二頭引	一頭引	二頭引
			計	計	計	計

考備

明治何府馬車馬具員數表

郡	區	種別	人乘馬車		荷馬車		馬具
			二輪車	四輪車	二輪車	四輪車	
			一頭引	二頭引	一頭引	二頭引	馬具
			計	計	計	計	馬具

第六類 第一章 徵發令







ル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ是ニ於テ士ハ従前ノ士ニ非ス民ハ従前ノ民ニアラ  
 ス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一  
 物トシテ稅アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心力ヲ盡シ國ニ報  
 セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國家ニ災  
 害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ得ス是故ニ人々心力ヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ  
 自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人々其役  
 ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ  
 非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研究  
 實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ  
 可カラズ故ニ今其長スル所ヲ取リ古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歳ニ  
 至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徵兵令ニ  
 依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキ也

明治五年壬申十一月二十八日  
 徵兵令

太 政 官

緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスヘカラサル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ  
 言フヲ俟タス其法タル古今其制ヲ異ニシ各國其趣キヲ同フセスト雖モ要スルニ一ニ民兵ニ

因ラサル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシ  
 テ兵服ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵  
 員ニ充ツ而壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出テシ者ニシテ服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵  
 トナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レハ後日ニ至リ或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ  
 法ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二  
 十年ヲ以テ程度トス今國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ方リ兵役ノ久シキ恐ラ  
 クハ人民生活ノ業ヲ妨害シ且當今ノ國力ニ於テモ關係無シト謂フヘカラス是ニ於テ斟酌其  
 宜ヲ採リ折衷其要ヲ拔キ現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云フ  
 (以下改正ニ付除ク)

○徵兵令 二十二年一月二十一日  
 法律第一號

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第一號  
 徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務  
 アルモノトス

第六類 第二章 徵兵令



第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期

限ハ一箇年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校小學校及理科等(二十二年十一月十二日法律第十九號ヲ以テ改正)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル

學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨

シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立

小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス(二十二年十一月十二日法律第十九號ヲ以テ改正)

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム(上全)

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ



法ニ依ラスシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス(同上追加)

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ徵罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内

勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勤務演習

及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ

之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十一條 第十一條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十

一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス(同上改正)  
學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試験委員ノ試験ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役、及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ



第四章 豫備徴員

第二十二條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間月十二起算ス豫備徴員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徴集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徴集ス

第二十四條 豫備徴員ニシテ其期限内ニ徴集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ戸主ニ非サル者ハ其戸主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徴集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徴集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徴集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徴集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日第十一條第三項ニ依リ服役スル者テ規定スル月日ヨリ起算ス(同上)ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨ

リ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ當分ニ之ヲ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備



役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間治

二十一年十二月一日ヨリ起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十一條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(全上)

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第二十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ(全上)

○徵兵事務條例二十二年二月二十五日勅令第十三號

朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽



勅令第十三號  
徵兵事務條例

第一章 徵兵區

- 第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ
- 第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ
- 第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス  
一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス  
數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其島廳ヲ置クモノ亦同シ
- 第四條 常備步兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管内最寄二大隊區ヨリ徵集スルヲ例トシ不足スルトキハ同管内他ノ大隊區ヨリ補充ス其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス  
近衛步兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス  
警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス  
海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

- 第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス
- 第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス
- 第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

シ其管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

- 第八條 旅管徵兵官ハ旅管内府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管内府縣徵募事務ヲ執行ス

- 第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司若クハ郡長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス

- 第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ陸軍二等軍醫正一名並府縣徵兵參事員四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸軍一三三等軍醫一名並郡市徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員各四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備隊區徵兵委員ヲ組織シ第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム

- 第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣會常置委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十二條 郡市島嶼徵兵參事員ハ其郡市島嶼内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム  
郡市島嶼徵兵參事員ノ選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル但被選人ハ其郡市島嶼内ニ現住ノ者ニ限ル

- 第十三條 府縣徵兵參事員及郡市島嶼徵兵參事員ハ互ニ兼ナルヲ得ス
- 第十四條 陸軍二等軍醫正ハ旅管内徵兵身體檢查ノ事務ヲ掌リ陸軍一三三等軍醫ハ專ラ身體ノ檢查ニ從事ス



第十五條 府縣郡市及島嶼徵兵參事員ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十六條 第十條ニ掲クル徵兵委員ノ外旅團副官一名府縣屬若干名地方徵兵醫員一名ヲ以テ旅管徵兵署事務員トシ大隊區書記又ハ警備隊書記各一名島廳附府縣屬又ハ郡市書記各一名地方徵兵醫員若干名ヲ以テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員トス  
第十七條 旅團副官府縣屬大隊區書記警備隊書記島廳附府縣屬及郡市書記ハ徵兵署ノ庶務ニ從事ス  
第十八條 地方徵兵醫員ハ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス陸軍醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十九條 毎年徵集ス可キ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

第二十一條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り三月一日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ  
市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徵募準備事務執行ノトキハ各徵募區ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク

土地廣濶壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ數箇ノ徵兵検査所ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署及検査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報ス可シ

島司郡市長ハ検査ノ日時徵兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署及検査所ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ徵兵委員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十八條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス



第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ハ徴兵検査名簿徴集延期名簿及徴集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ニ於テ徴集ヲ延期シ又ハ徴集ヲ猶豫ス可キモノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス

第三十一條 徴募準備事務終ルノ後大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受ク可キ書類ヲ取經メ旅管徴兵官ニ差出ス可シ但徴集延期及徴集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徴兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徴募

第三十二條 毎年徴募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徴兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徴兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徴兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達ス可シ

府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徴兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島司郡市長ハ豫メ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徴集順序ヲ定ムル爲メ徴募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ旅管徴兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

抽籤ハ旅管徴兵委員及大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人之ヲ爲スモノトス

抽籤總代人ハ籤丁ノ選ヲ以テ徴募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第三十五條 島司郡市長ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ旅管徴兵官ニ差出シ他ノ一本ハ之ヲ保管ス可シ

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徴兵官ハ當籤番號ノ順序ニ從ヒ新兵徴募ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ヨリ差出シタル書類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ新兵名簿豫備徴員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ヲ作ル可シ

第三十七條 旅管徴兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其證書ヲ附與ス

第三十八條 徴募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徴兵事務報告書及徴兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又新兵名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及豫備徴員名簿ヲ大隊區司令官ニ交付ス可シ

近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致ス可シ

免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ

第三十九條 師團長ハ師管徴兵事務報告書及徴兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徴兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徴集延期及徴集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徴募豫備徴員及國民兵



編入並免役ノ事ヲ裁決ス

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徵兵官之ヲ爲ス

第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條第二十一條第二十八條ニ關スル大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス  
本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ受理セス

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ其由ヲ届出可シ

第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添フ可シ

第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第七章 新兵

第四十七條 新兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵及輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應シ大隊區副官若クハ書記ヲシテ入營地ニ引率セシム但新兵五人未滿ナルトキハ引率セシムルヲ要セス

近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラヌ大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引率セシメ新兵受領委員ニ交付スルモノトス但大隊區書記出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第五十條 新兵入營前ハ轉籍ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セス但師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認タル者アルトキハ其徵募區ヨリ同兵種ノ豫備徵員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵募區ヨリ徵集スルコト能ハサルトキハ大隊區内他ノ徵募區ヨリ補フ其配賦ハ各徵募區豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 新兵入營前癱疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ



於テ兵役ヲ免ス

六百八十二

第五十三條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内新兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ

第五十四條 新兵入營前轉籍セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十五條 新兵入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

#### 第八章 豫備徵員

第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從テ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム

第五十八條 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルト

キハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスシテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニシ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ

本條ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

#### 第九章 雜則

第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ

第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ

第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出可シ其願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ一月三十一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出可シ



島司又ハ郡長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス  
島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添へ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知  
ス可シ

第六十四條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者  
ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷書  
ヲ添フ可シ

島司又ハ郡長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十五條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄  
ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ  
診斷書ヲ添フ可シ

其届書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、新兵入營ノ旅費、府縣  
郡市島嶼徵兵參事員ノ手當金旅費、地方徵兵醫員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十七條 現役中疾病或ハ傷痕ニ依リ永久服役ニ堪へ難キ者ハ近衛都督師團長又ハ鎮  
守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ス其一時服役ニ堪へ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ

通シテ七箇年間服役セシム

第六十八條 現役中徵兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ近  
衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ編入ス但現役年期ヲ通シ  
テ七箇年間服役セシム

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内現役兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添  
へ大隊區司令官又ハ警備隊司令官及旅團長ヲ經テ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官  
ニ差出ス可シ

第十章 附則

第六十九條 北海道廳管下函館江差福山其他島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト  
能ハサルトキハ師團長地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第七十條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ同令第二十六條後段ノ例ニ準シ寄留地最  
寄ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第七十一條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年又ハ翌年ノ徵集  
ニ應セシム但年齢二十六歳ヲ過クル者ハ此限ニ在ラス

第七十二條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ町村長ノ職務ハ町村  
制ヲ實施スル迄ハ戸長ニ於テ行フ可シ

第七十三條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル



第七十四條 明治二十二年ニ限リ第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

○徵兵事務條例細則 二十二年二月二十八日 陸軍省令第一號

徵兵事務條例施行細則左ノ通定ム

徵兵事務條例施行細則

第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附録第一様式ニ依リ之ヲ作リ一市一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ

第二條 徵兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名簿ヲ作リ壯丁名簿ニ添附ス可シ

第三條 條例第二十五條ノ徵兵署及徵兵検査所巡回日割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ報告ス可シ

第四條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官到著ノ上之ヲ開設ス可シ

徵兵検査所ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官豫メ旅管徵兵官ヲ經テ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概テ壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

第五條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所巡回日割既ニ定マルトキハ島司郡市長ハ其徵募區内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引纏メ徵兵署又ハ徵兵検査所ニ出頭セシム可シ

第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ島廳附府縣廳郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出ス可シ

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體アラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テス可シ

第八條 身體検査ノ際現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ大隊區徵兵官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其最況書ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ具申ス可シ

其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徵兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條 身體検査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人名ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

第十條 徵兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ屬シ第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附録第二様式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徵兵令第二十條第二十一條ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選ブ可シ

一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者

二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者

三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力精明ナル者

四 工兵ハ諸職工中殊ニ工兵ノ作業ニ適當シ勞力アル者

五 輜重兵及騎重砲卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且勞力アル者

六 職工ハ現ニ其職ニ從事シ又ハ管テ其職ニ從事セシ者

近衛諸兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選ブ可シ

第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ヲ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ選ブ可シ

一 海員免狀ヲ受有シ海員ノ業ニ從事スル者

第六類 第二章 徵兵令



- 二 汽車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ従事スル者
- 三 現ニ前項ノ職業ニ従事セスト雖モ一箇年以上菅テ之ニ従事セシ者
- 四 舟夫
- 五 漁夫

職工及雜卒ハ各其勤務ニ適當ノ者ヲ選フ可シ

第十三條 條例第二十九條ノ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵検査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其理由ヲ記スルモノトス

第十四條 大隊區ニ於テ師團歩兵聯隊ノ配賦人員ヲ五スコト能ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄二箇ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル

第十五條 徵兵令第二十條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ止マサル者及同令第二十八條ニ當ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ都市徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員ヲシテ其當否ヲ審議セシメ之ニ意見書ヲ付シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

第十六條 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ徵集猶豫ノ期限間身體ノ検査ヲ行ハス

第十七條 疾病傷疾又ハ犯罪等ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵集區ノ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官若クハ徵兵検査所若クハ旅管徵兵官ニ出頭セシメ若クハ翌年ノ検査ニ回ス可シ但疾病傷疾ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ検査ス可シ

第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ旅團長到署ノ上之ヲ開設ス可シ

第十九條 抽籤施行ニ先ツテ旅管徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵集區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ル可シ

籤ノ番號ハ合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起ヌヲ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ヌ可シ

第二十條 籤札ハ附録第三様式ニ依リ之ヲ作リ籤箱ニ納メ之ヲ封鎖シ旅管徵兵委員大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官列席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ島廳府縣郡市書記籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第二十一條 條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ一頁ノ番號ヲ記シ置キ總代人ノ抽ク毎ニ其住所氏名ヲ相當番號ノ下ニ記入ス可シ

第二十二條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其籤札ヲ島廳府縣屬又ハ郡市書記ニ渡シ島廳府縣屬郡市書記ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ割印ヲ押シ一人毎ニ之ヲ籤チ切り總代人ニ交付ス可シ

第二十三條 検査合格者ハ左ニ掲グル順序ニ從ヒ現役兵ニ編入シ其要員ニ超過スル者ハ豫備徵兵ニ編入ス  
一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者 二人以上ナルトキハ年齢ノ順序(同年齡ノ者ハ誕生月日ノ順序)ニ從フ第二項第三項第五項第六項亦同シ  
二 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者

三 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者  
四 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者 番號ノ順序ニ從フ 第七項亦同シ  
五 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者

六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者  
七 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵署ニ於テ附録第四第五第六第七様式ニ依リ新兵證書豫備徵兵證書國民兵證書及免第六類 第二章 徵兵令



役證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ  
徵兵令第二十條ニ依リ國民兵編入ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ又同令第二十八條ニ依リ徵集ス  
ル者ニハ別ニ其裁決書ヲ作り前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第二十五條 條例第三十六條ノ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ハ徵兵検査名簿ヲ以テ編綴シ種類ヲ分  
チ冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ

第二十六條 旅管徵兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ新兵監視名簿及豫備徵員監視名簿ヲ作り各監視區長ニ交付ス可シ

第二十七條 條例第三十八條ノ徵兵表ハ附録第八様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第二十八條 壯丁名簿進達後検査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ徵募區ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村  
長之ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ但検査後抽籤前ニ係ルモノハ島司又ハ郡長ヲ經テ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

市ニ在テ検査名簿進達後抽籤前名簿ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

新兵入營前及豫備徵員ノ名簿ニ關スル異動ヲ除クハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知ス可シ

第二十九條 検査後抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ検査名簿ヲ添へ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ  
通知ス可シ

其異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ徵集ス

第三十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中名簿ニ關スル異動ヲ生スル  
者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス  
可シ

他ノ徵募區ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添へ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス  
可シ

第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ同令第十八條第十九條第二十條及第二

十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫ト爲リ延期若クハ猶豫中本籍ニ復歸シ又ハ他ノ徵募區ニ寄留替ヲ爲シ更ニ其地  
ニ於テ徵集ニ應シ度キ旨一月三十一日迄ニ願出ルトキハ島司郡市長之ヲ許可スルコトヲ得

島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添へ新住地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ但  
寄留替ノ者ハ本籍ノ島司郡市長ニモ通知ス可シ

第三十二條 徵兵令第二十五條ノ届出期限後條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島  
司又ハ郡長ニ提出ス可シ

市ニ在テハ市長壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署又ハ旅管徵兵署ニ提出ス可シ

第三十三條 新兵入營ノ期ニ先タチ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛海軍新兵集合地ニ到ル日數ヲ母リ召集ノ場所  
及日時ヲ定メ島市又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ

第三十四條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍新兵受領委員ハ左ノ如シ  
新兵五人以上五十人迄 下士若クハ上等兵 海軍ハ一等卒 以下之ニ倣フ 一名兵卒一名  
乃至三名 乃至三名

新兵五十一人以上百五十人迄 中少尉 海軍ニ在テハ大 一名下士若クハ上等兵  
一名乃至二名兵卒四名乃至六名 中少尉一名下士若クハ上等兵二名乃至三名兵  
卒八名乃至十名 大尉一名中少尉一名下士若クハ上等兵三名乃

新兵三百一人以上 至五名兵卒十名乃至十五名

第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍新兵集合地ハ左ノ如シ

第一師管ハ東京横須賀  
第二師管ハ仙臺白河  
第三師管ハ四日市沼津  
第四師管ハ神戸

第六類 第二章 徵兵令







第三様式 (徵集延期) 猶豫(證書)

用紙厚紙

六百九十四

表 凡曲尺三寸

右徵兵令第何條<sup>△</sup>ニ依リ徵集ヲ延期(猶豫)ス

△府(縣)郡(市)町(村)  
△氏 名

年月日

何<sup>△</sup>大隊區徵兵署

印

凡曲尺五寸

裏

本證書ハ之ヲ附與シタル日ヨリ翌年ノ徵兵檢査迄其効ヲ有スルモノトス

本證書用紙ハ島廳郡市役所ニ於テ調製スヘシ

第三様式 (徴札)

用紙厚紙

近衛(海軍)

甲(乙)種 何兵 第何番

第四様式 (新兵證書)

徴札用紙ハ島廳郡市役所ニ於テ調製スヘシ

用紙厚紙

表 凡曲尺四寸

第何旅管何大隊區<sup>△</sup>  
△府(縣)郡(市)町(村)住  
△何兵第何番 △氏 名

右現役兵ニ徵募シ何兵第何聯(大)隊ニ編入ス

年月日

第何旅管徵兵署

印

凡曲尺六寸

第六類 第二章 徵兵令

六百九十五







表 凡曲尺六寸

右徵兵令第何條ニ依リ國民兵ニ編入ス

年月日

第何旅管徵兵署

印

△府(縣)郡(市)町(村)住

△氏

名

六百九十八

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ

第七様式 (免役證書)

用紙原紙

表 凡曲尺四寸

右徵兵令第十七條ニ依リ兵役ヲ免ス

年月日

第何旅管徵兵署

印

△第何旅管何大隊區

△府(縣)郡(市)町(村)住

△氏

名

凡曲尺六寸

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

裏

本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ

第六類 第二章 徵兵令

六百九十九







國民兵編入人員				徵集猶豫延期人員								員			
計	身 幹 短 尺	疾 病	家族 自活 シ能 ハサル 者	計	一年 志願 兵志 願者	外 國 留 學	學 校 生 徒	家族 自活 シ能 ハサル 者	公 權 停 止	裁 判 未 決	疾 病	身 幹 短 尺	計	員 小 計	徵 兵 令 第 二 十 八 條 ニ 當 ル 者

一 警備隊區アル旅管ニ在テハ大隊區ノ下ニ其區畫ヲ設ク可シ  
 二 北海道ヨリ徵集ニ應シタル者ハ近衛師團及海軍ヲ區別シ現役豫備徵員ヲ分チ其人員ヲ備考區  
 畫ニ記ス可シ  
 三 本表ノ區畫ハ實際ニ就キ適宜増減ス可シ其二表亦同シ  
 第八様式ノ二 (徵兵表)

明治何年 第何旅管 徵兵表

種 別	年	齡	徵		募		人	
			當 籤 者	現 志 願 者	役 小 計	豫 當 籤 者	備 令 第 二 十 一 條 ニ 當 ル 者	
		二十歳						
		二十一歳						
		二十二歳						
		二十三歳						
		二十四歳						
		二十五歳						
		二十六歳						
		計						

用紙大美濃紙

考 備	軍	
	員 計	徵 卒 雜







○徵兵事務條例中明文ナキモノ鎮臺へ協議取計方 十八年十二月十一日 陸軍省達甲第四拾八號府縣(沖繩札幌根室ノ三縣ヲ除ク)

明治十七年第十八號布達徵兵事務條例中明文ナク徵兵事務執行上差支候モノハ是迄當省へ伺出來候處自今所管鎮臺へ協議ノ上取計フヘシ此旨相達候事

但別途費用ヲ要スヘキモノハ豫メ主務省へ伺出ヘシ

○徵兵令第廿二條ノ餘人ヲ以テ代フ可ラサル官吏認可ノ件 二十二年二月二十七日 閣令第六號各官廳

明治二十二年法律第一號徵兵令第三十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フ可シ

○附籍者徵兵適齡届出及應徵方 二十二年十一月二十二日 陸軍省訓令甲第七號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキハ戶主ト家族ヲ問ハス戶主ヨリ家族ノミ他(附籍ノ場合ニ在テハ本籍戶主ヨリ徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ差出サシメ本籍ノ徵集區ニ於テ徵集ニ應セシム可シ

○徵集延期若クハ猶豫中他徵集區ニ轉籍スル者アルトキ通知方 二十二年十月三十一日 陸軍省訓令甲第六號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中他ノ徵集區ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ其名簿ヲ添へ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知セシム可シ 但失踪逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年同ト爲リタル者ニテ他ノ徵集區ニ轉籍スル者ノ取扱ヒ亦本文ニ同シ

○明治二十二年以前ノ徵兵及豫備後備兵失踪逃亡者搜查通報方 二十三年三月二十日 陸軍省訓令甲第四號廳府縣(東京府ヲ除ク)憲兵司令部

明治二十二年以前ノ徵兵及陸軍豫備兵後備兵ニシテ失踪逃亡ノ者別冊ノ通候條警察官又ハ憲兵ヲシテ隨時搜查セシメ其所

在發見シタルトキハ警察本署 北海道ハ警察署 又ハ憲兵隊ヨリ徵兵ハ本籍所管ノ地方廳へ豫備兵後備兵ハ師團司令部へ通報セシム可シ 別冊ハ別 府縣ハ警察本部

○明治十七年以前ノ徵兵失踪逃亡者ニシテ其踪跡不明ノ者ハ毎年調査ヲ要セス 二十三年三月二十日 陸軍省訓令甲第五號師團司令部道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治十七年以前ノ徵兵ニシテ失踪逃亡ノ者ハ歸投若クハ所在發見スルニ從ヒ徵集ノ手續ヲ爲シ其踪跡不明ノ者ハ毎年調査スルニ及ハス

○明治二十二年以前ノ徵兵相當者ニシテ失踪逃亡ノタメ徵集ニ應セサル者取調へ差出サシム 二十二年十月一日 陸軍省訓令甲第五號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治二十二年以前ノ徵兵相當者ニシテ失踪逃亡ノ爲メ徵集ニ應セサル者ヲ取調其住所氏名年齢ヲ記シ本年十一月三十日迄ニ當省へ差出可シ但所在發見シタルトキハ其都度届出可シ

○六週間陸軍現役兵ノ徵集及服役方 二十三年三月七日 勅令第二十二號

朕徵兵令第十一條第三項ニ依リ陸軍現役ニ服スヘキ者ノ徵集及服役ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十二號

徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役兵ニ服スヘキ者ハ其教職ニ在ル地ヲ包括スル師團ノ步兵隊ニ編入ス其身體検査ハ入營ノ際步兵聯隊ニ於テ之ヲ行ヒ検査ニ合格セサル者ハ國民兵役ニ編入ス



入營期日ハ毎年六月一日トシ其入營旅費ハ官給ス

○六週間陸軍現役ニ服スル者取扱方 二十三年三月十日 陸軍省訓令甲第二號 師團司令部 道廳府縣 徵兵令第十一條 第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服スル者ノ取扱左ノ通定ム

第一項 官立府縣立師範學校ヲ卒業シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ノ身幹尺度ヲ道廳府縣ニ於テ調査シ毎年五月一日迄ニ其族籍氏名ト共ニ師團司令部ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知ス可シ但官立小學校ノ教職ニ在ルモノハ其所屬長ヨリ四月二十日迄ニ族籍氏名及身幹尺度ヲ學校所在地廳府縣ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知ス  
第二項 師團司令部ニ於テハ入營ス可キ人員ヲ步兵聯隊ニ配當シ入營前日迄ニ其聯隊所在地ニ召集シ身體検査ヲ行ハシム可シ但身幹定尺ニ滿タサル者ハ召集スルヲ要セス  
身體検査ノ格例ハ一般徵兵ノ例ニ依ル

第三項 身體検査ニ合格シタル者ト合格セサル者ト身幹定尺ニ滿ラズ區分シ師團長ヨリ本籍ノ旅管徵兵官ニ通知ス可シ  
第四項 旅管徵兵官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其合格セサル者ニハ國民兵證書ヲ附與ス可シ  
第五項 前諸項ニ掲ケルモノ、外ハ師管徵兵官ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ

○官立府縣立師範學校卒業生徵兵ニ關スル件 二十二年三月六日 法律第八號

朕官立府縣立師範學校卒業生ノ徵兵ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第八號

官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラヌ直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分スヘシ

○徵兵事務條例中徵募區及市長市書記市徵兵參事員ニ關スル件 二十二年五月八日 勅令第六十四號

朕徵兵事務條例中徵募區及市長市書記市徵兵參事員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十四號

徵兵事務條例第三條ノ徵募區ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ徵募區ト爲ス  
徵兵事務條例中市長及市書記ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長若クハ區書記ニ於テ之ヲ行フ

東京市京都市大阪市ニ於テハ市徵兵參事員ヲ置カス區ニ區徵兵參事員ヲ置キ市徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム其人員選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ市徵兵參事員ニ同シ  
區徵兵參事員ノ選舉月日及選舉開會並投票西閉鎖ノ時刻ハ明治二十二年ニ限り府知事ヨリ選舉開會五日以前ニ告示スルコトヲ得

○徵兵參事員手當金並ニ旅費支給規則 二十二年四月二十四日 內務省令第六號 北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク) 支給規則

- 一 手當金ハ府縣郡市島嶼ヲ問ハス出務日數ニ應シ一日金壹圓ヲ支給ス
- 一 旅費ハ左表ノ金額ヲ給ス其支給法ハ明治十九年六月閣令第十四號內國旅費規則ニ據ル

第六類 第二章 徵兵令







- 二十四 鼻腔、前頭竇、上顎洞ノ慢性潰瘍、腫瘍
- 二十五 口内惡性潰瘍、唇頰瘻、口吻狹窄
- 二十六 唇又ハ歯牙ノ疾病缺損ニシテ咀嚼ニ妨アルモノ
- 二十七 口蓋ノ破裂缺損、穿孔
- 二十八 舌若クハ唾腺ノ腫瘍、肥大缺損又ハ扁桃腺ノ腫瘍、肥大ニシテ其著大ナルモノ及唾瘻
- 二十九 嚥、咽嚥
- 三十 喉頭及氣管ノ畸形並ニ其慢性病
- 三十一 食道狹窄
- 三十二 斜頸及脊梁ノ畸形ニシテ運動ニ妨アルモノ
- 三十三 胸廓畸形ノ著大ナルモノ
- 三十四 肺、胸膜ノ慢性病
- 三十五 心臟、心竇ノ慢性病
- 三十六 腋臭及足汗ノ惡臭甚シキモノ
- 三十七 骨盤畸形ノ著大ナルモノ
- 三十八 歌兒尼亞
- 三十九 慢性脱肛、痔瘻又ハ著大ノ痔核ニシテ定期性出血、膿潰等アルモノ
- 四十 尿糞、尿石及尿道畸形
- 四十一 翠丸、副翠丸ノ慢性炎、肥大及翠丸、腹輪中ニ在テ疼痛ヲ發スルコトアルモノ
- 四十二 四肢ノ麻痺、削瘦、短縮、彎曲、假關節
- 四十三 關節畸形
- 四十四 脱臼若クハ習癖脱臼又ハ關節痠軟

- 四十五 拇指若クハ示指又ハ他ノ三指ノ爪甲全缺
  - 四十六 陸軍兵ニ在テハ剩指又ハ指ノ癒著及小指末節ヲ除クノ他指節ノ強剛  
海軍兵ニ在テハ剩指又ハ指ノ癒著及指節ノ強剛
  - 四十七 陸軍兵ニ在テハ環指若クハ小指ノ末節ヲ除クノ他一節以上又ハ環指小指共ニ一節以上ノ缺損  
海軍兵ニ在テハ諸指一節以上ノ缺損
  - 四十八 足ノ畸形
  - 四十九 陸軍兵ニ在テハ大趾ハ一節以上他趾ハ二趾以上ニシテ一節以上ノ缺損  
海軍兵ニ在テハ諸趾一節以上ノ缺損
  - 五十 剩趾又ハ趾ノ著大ナル彎曲
- 第五條 前條各項ノ疾病畸形ト雖モ其輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ニシテ服役シ得ヘカラサルモノト認ムルトキハ不合格トス

○徵兵検査手續 二十二年三月二十五日 陸軍省陸達第三十七號

徵兵検査手續別冊ノ通定  
但明治二十一年六月陸達第百三十一號陸軍徵兵検査手續ヲ廢ス

別冊

徵兵検査手續

- 第一條 徵兵検査手續ハ徵兵検査規則ニ據リ之ヲ定ムルモノナリ
  - 第二條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ一日壯丁概テ百五十名ヲ検査シ旅管徵兵委員タル醫官其検査ヲ要スルトキハ一日概テ五十名ヲ検査スヘシ
  - 検査ニ要スル器械ハ陸軍病院備附ノモノヲ使用ス
- 第六類 第二章 徵兵令



第三條 大隊區(警備隊區)徵兵署事務員タル地方徵兵醫員ハ四名トス

第四條 身體検査ノ順序ハ概テ左ノ如シ但シ測尺及視力關節運動各部構造ノ検査ハ地方徵兵醫員ニ分擔セシムルモノトス

一 測尺主任ノ醫員ハ壯丁ヲシテ踵ヲ測尺柱ニ當テ、直立セシメ身長ヲ測リ其尺度ヲ壯丁名簿ニ記入捺印シ次ニ尺帶ヲ取リ兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ屈曲シ尋常ノ氣息ヲナサシメテ胸圍ヲ測リ續テ最強ノ呼吸ヲナサシメ其縮張ノ差ヲ測ルヘシ但シ身幹定尺ニ滿ツルモノ胸圍身幹ノ半ヨリ大ナルモノ縮張ノ差一寸五分以上ノモノハ壯丁名簿ニ捺印シ是ヨリ以下ノモノ及測尺困難ナルモノハ醫官ニ申告スヘシ

二 視力検査主任ノ醫官ハ「スネルレン」氏視力表ヲ場内ノ壁上ニ掲ケ二十尺ノ距離ニ壯丁ヲ立シメ初メ各偏眼ノ視力ヲ次ニ兩眼合働ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨色力ヲ檢スヘシ其検査ニ由リ視力表ノ二十號ヲ明視スルモノ及辨色力完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

三 關節運動検査主任ノ醫員ハ壯丁ヲシテ頭首、脊椎、四肢諸關節ノ屈伸内外轉、回轉ノ諸運動ヲナサシメ其運動完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

四 各部構造検査主任ノ醫員ハ頭顱、顔面、眼、鼻、口、咽喉、耳、頸、胸、肋、腋窩、上肢ノ前面及其兩側、腹、腹股部、下肢ノ前面及其兩側、項、背、腰、臀、胫、腓、門、四肢ノ後面ヲ檢シ其完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

五 醫官ハ主任醫員ノ申告ニ依リ不合格ト認メタルモノハ爾餘ノ検査ヲ止メ否ラサルモノハ壯丁名簿ニ自ラ其意見ヲ記入シタル後他ノ検査ヲ行ハシム

六 醫官ハ主任醫員ノ検査終ル後壯丁ノ住所、氏名、年齢等ヲ問ヒ應答ノ間言語精神及聽官ノ機能ヲ試ミ次ニ其體格一般ノ強弱健否ヲ判別シ體格ノ等級ヲ定ム

第五條 體格ノ等級ヲ區別スルコト左ノ如シ  
一 甲種 身體強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ

二 乙種 甲種ニ亞クモノ

三 丙種 徵兵令第十八條第一項第二項ニ當ルモノ

四 丁種 疾病或ハ畸形ニシテ兵役ニ堪ヘサルモノ

第六條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ體格一般ノ構造ヲ酌量シテ合格トナスコトヲ得但シ壯丁名簿ニ其意見ヲ記入スヘシ

一 胸廓ハ尋常ノ氣息ニ於テ其周圍身幹ノ半ニ至ラス若クハ縮張ノ差一寸五分ヲ超ヘサルモ其構造良ナルモノ

二 身體一部ノ形器官能ニ障礙アルモ輕重輪卒若クハ陸軍職工ノ服役ニ堪フヘキモノ

三 精神病(癲癩、重聽、夜盲、遺尿)又ハ自覺症ヲ訴フルモ現ニ其徵候ナク若クハ其徵候確實ナラサルモノ

第七條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ壯丁體格ノ適否ヲ判定シ難キ場合ニ於テハ當該徵募區検査期日內其検査ヲ續行スルコトヲ得而シテ尚決シ難キモノアルトキハ其理由ヲ附箋シテ旅管徵兵委員タル醫官ノ審決ニ附スヘシ

第八條 醫官ハ壯丁中故意ニ身體ヲ毀傷シ若クハ疾病ヲ作爲スルモノト認メタルトキハ鑑定書ヲ製シテ當該徵兵官ニ致スヘシ

第九條 醫官ハ地方徵兵委員ノ其任ニ堪ヘサルモノト認メタルトキハ其意見ヲ當該徵兵官ニ申告スヘシ

第十條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ検査終了ノ後一週日以内ニ徵兵體格表(第一式) 徵兵病類表(第二式)ヲ調製シテ旅管徵兵委員タル醫官ニ報告スヘシ

第十一條 旅管徵兵委員タル醫官ハ前條ノ報告ニ據リ旅管徵兵體格表、旅管徵兵病類表(第一式)前條ヲ調製シ所管軍醫長ヲ經テ陸軍省醫務局長ニ報告スヘシ

第十二條 醫官ハ検査事項ニ關シ意見アルトキハ報告ニ添ヘ問申スルモノトス

第一式

用紙美濃白紙

明治何年第何師管第何旅管(大隊區(警備隊區)徵兵體格表)















ヲ以テ徵兵令參考ヲ改訂ス○同年十一月陸軍省達第百十二號達ヲ以テ後備軍召集條例ヲ定ム○九年二月陸軍省達第  
 十八號達ヲ以テ徵兵入費概則ヲ改正ス○同年十二月大藏省乙第百九號達ヲ以テ徵兵入費概則ヲ定ム○十一年八月第  
 二十號布告ヲ以テ常備兵役ヲ免ヘサル前分家ヲ禁ス○十二年十月第四十六號布告ヲ以テ徵兵令ヲ改正シ徵兵ニ關ス  
 ル從前ノ布告達等ヲ廢ス○同年十一月陸軍省達甲第二十一號達ヲ以テ地方徵兵醫員職務概則ヲ定ム○同月陸軍省布  
 第二號布達ヲ以テ徵兵事務條例ヲ定ム○同年十二月大藏省乙第四十八號達ヲ以テ徵兵入費定則ヲ改定ス○十四年三  
 月陸軍省達甲第七號達ヲ以テ後備軍司令部條例ヲ定メ八年十一月達後備軍官員服務概則ヲ廢ス○同月陸軍省達甲第  
 八號達ヲ以テ豫備軍後備軍編制條例ヲ定ム○十六年十二月第四十六號布告ヲ以テ徵兵令ヲ改正ス○十七年七月第十  
 八號布達ヲ以テ徵兵事務條例ヲ定ム○同年八月陸軍省達甲第三十六號達ヲ以テ陸軍徵兵事務取扱手續ヲ定ム○十七  
 年十月陸軍省達甲第四十一號ヲ以テ陸軍醫官徵兵検査規則ヲ定ム○十九年四月同省令第十號ヲ以テ徵兵看護卒取  
 扱手續ヲ定ム○同月同省令甲第十三號ヲ以テ陸軍看守卒召集事項ヲ定ム○同年六月同省令甲第二十九號ヲ以テ一  
 志願兵取扱規則ヲ定ム○同年十月陸軍省令甲第三十九號ヲ以テ陸軍召集條例ヲ定ム○同年十一月勅令第七十三號ヲ  
 以テ十六年第四十六號布告徵兵令中ヲ改正追加ス○同月勅令第七十五號ヲ以テ警備隊條例ヲ頒布ス○同月閣令第三  
 十一號ヲ以テ徵兵令改正追加ニ付十九年適齡者並現役及豫備役卒ノ取扱方ヲ定ム○二十年三月閣令第三號ヲ以テ徵  
 兵事務條例中ヲ改正刪除ス○二十年十二月大藏省令第十七號ヲ以テ徵兵旅費定則ヲ改正ス○二十一年五月海軍省令  
 第六號ヲ以テ海軍豫備後備兵歸家其他轉籍寄留失踪犯罪等身分異動ノ願届取扱方ヲ令ス○同月陸軍省令第十一號ヲ  
 以テ徵兵事務條例中後備軍司令官駐在官ノ職務執行方ヲ示ス○同月同省令第十四號ヲ以テ陸軍豫備後備兵在郷中ノ  
 官則ヲ定ム○同年七月勅令第五十七號ヲ以テ警備隊條例中ヲ改正ス○廿二年一月法律第一號ヲ以テ徵兵令ヲ改正ス  
 ○同年二月勅令第十三號ヲ以テ徵兵事務條例ヲ改正ス○同月勅令第十四號ヲ以テ陸軍一年志願兵條例ヲ定ム○同年  
 三月勅令第三十七號ヲ以テ陸軍輜重輸卒現役及入營期限ヲ定ム○同月陸軍省令第一號ヲ以テ徵兵事務條例細則ヲ定  
 ム○同月陸軍省令第二號ヲ以テ陸軍醫官徵兵検査規則ヲ廢シ徵兵検査規則ヲ定ム○同月同省令第三號ヲ以テ陸軍一

年志願兵施行細則ヲ定ム○同月陸軍省令第七號ヲ以テ警備隊入營前取扱方ヲ改正ス○同月勅令第四十三號ヲ以テ意  
 兵條例ヲ改正ス

○徵兵旅費定則 二十年十二月十六日  
大藏省令第十七號

明治十八年七月當省達第四十二號徵兵旅費定則左ノ通改正ス

徵兵旅費定則

第一條 徵兵旅費ハ検査及入營ノ二種トシ片道三里以上ノ旅行ヨリ之ヲ支給ス

検査旅費ハ檢丁、呼出ニ係ル檢丁ノ父兄、癡疾不具者ニ同伴シタル保護人及抽籤人検査所  
 又ハ抽籤場へ往復ノ旅費トス

入營旅費ハ新兵入營ノ旅費トス

第二條 検査旅費ハ一里ニ付金貳錢五厘入營旅費ハ同金四錢ノ割ヲ以テ支給ス但一里未滿  
 ノ端里數ハ切捨トス

官ノ都合ニヨリ特ニ滞在ヲ命シタルトキ検査旅費ニ在テハ金貳拾貳錢入營旅費ニ在テハ  
 金貳拾八錢ノ滞在日當ヲ支給ス

其地戸長ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第三條 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キトキハ渡航賃  
 ノ實費ヲ支給スルコトヲ得



片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニヨリ特ニ宿泊ヲ命シタルトキ検査旅費ニ在テハ金拾五錢入營旅費ニ在テハ金貳拾錢ノ宿泊料ヲ支給ス

第四條 片道三里以上ノ旅行ニシテ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キモノ若クハ地勢上渡航又ハ汽車乗用ヲ便トスルトキハ第二條ニヨラス其實費(汽車汽船ハ下等貨タルハシ)ヲ支給スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ泊數ニ應シテ前條ノ宿泊料ヲ給ス其陸行(徒歩)ト相跨ル日亦之ニ準シ尙陸路里數ニ應シテ別ニ第二條ノ旅費ヲ支給ス

第五條 新兵入營ノ旅行ハ一日十里詰トシ若シ各兵集合上ノ都合ニヨリ其見積行程ヨリ延著セシメタルトキハ増日數ニ應シテ滞在日當ノ額ヲ支給ス

第六條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癡疾不具ニシテ歩行スル能ハサル者ハ第二條ノ外片道一里以上ヨリ一里ニ付金六錢ノ駕車賃ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス

第七條 新兵入營途中疾病ニヨリ歩行スル能ハスシテ駕車ヲ乗用シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スルトキハ駕車賃ノ實費若クハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第八條 新兵ニ附添ヒ營所ニ至ル郡區書記若クハ戶長ノ旅費ハ内國旅費規則ニヨル

第九條 北海道廳長官府縣知事ノ見込ニヨリ本則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜タルヘシ

### 第三章 陸軍志願兵 陸軍歸休兵

○陸軍一年志願兵條例二十二年二月二十五日勅令第十四號

朕陸軍一年志願兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 御名 御璽

勅令第十四號

#### 陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十一條ニ據リ一箇年間陸軍現役ヲ志願スル者ハ兵種及衛戍地ヲ選ヒ服役スルコトヲ得但服役中ノ費用官給ヲ受クル者ハ此限ニ在ラス

第二條 一年志願兵ノ被服裝具彈藥武器及屬具ハ其所屬部隊ヨリ現品ヲ給シ其被服裝具費彈藥費武器及屬具修理費トシテ金六拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算ヲ爲シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

武器及屬具ハ服役滿期ノトキ之ヲ返納セシム

第三條 騎兵トシテ服役スル者ハ馬匹及馬具ヲ貸與シ其馬匹ニ係ル一切ノ費用及馬具修理費トシテ第二條ノ納金ノ外金八拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第四條 一年志願兵ハ日給ヲ給セサルモノトス

徵兵署検査所往復旅費及入營退營旅費ハ一切自辨トス



第五條 一年志願兵ハ營外ニ居住シ通勤セシメ其居宅及食餌ノ費用ハ本人ノ自辨トス  
若シ品行不正ノ事アルトキハ營内ニ居住セシメ食餌ハ該部隊ヨリ給シ其費用ヲ辨償セシ

第六條 身元貧困ニシテ費用ノ全部ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ官費ヲ以テ服役セシム  
一 居宅及食餌ノ費用ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ被服裝具彈藥

武器及屬具ヲ給與ス  
二 武器及屬具ノ修理費ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ食餌被服裝具彈藥ヲ給與シ營内ニ居住セシム

第七條 官費ヲ以テ服役ヲ許ス可キ一年志願兵ノ人員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

第八條 官費ヲ以テ服役セシム可キ壯丁前條ノ定員ニ超過シタルトキハ年少ノ者ヨリ順次  
次年ニ回シ入隊セシムルコトアル可シ

第九條 一年志願兵タラント欲スル者ハ其願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ一月三十一日迄ニ島司又ハ郡市長ニ差出シ島司郡市長ハ本人身元資産ノ有無及犯罪ノ有無ヲ取調ヘ證明書ヲ作り之ヲ願書ニ添ヘ本人居住地所管ノ旅團長ニ差出ス可シ

一 戸主本人戸主ナレバ其家族ノ承認書  
此承認書ハ第二條第三條第五條第一項又ハ第六條第一項若クハ第二項ノ費用ヲ自辨スルコトヲ記スルモノトス

二 官立學校帝國大學醫學科及小學校ヲ除ク府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校卒業ノ者ハ前項ニ掲グル承認書ノ外該學校ノ卒業證書

第十條 一年志願兵タラント欲スル者ニシテ一月三十一日迄ニ第九條第二項ノ學校ヲ卒業セサルモ其年ノ九月三十日迄ニ卒業ス可キ者ハ卒業證書ニ換フルニ學校長ノ證明書ヲ以テ願出ルコトヲ得但卒業シタルトキハ直ニ卒業證書ヲ添ヘ旅團長ニ届出可シ

第十一條 第九條ノ志願者中學術ノ試験ヲ受ク可キ者ハ其人名書ヲ旅團長ヨリ師團長ヲ經テ監軍ニ呈シ監軍ハ之ヲ將校學校監ニ下シ將校學校監ハ之ヲ陸軍將校生徒試験委員ニ下付ス

師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ志願者ヲ召集シ其地所在ノ軍醫ヲシテ身體検査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試験委員到著ノトキ交付ス

第十二條 陸軍將校生徒試験委員ハ志願者ノ身體検査ニ合格シタル者ノ學術ヲ試験シ試験書ヲ旅團長ニ送付ス

第十三條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ノ試験及合格格例ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條 旅團長ハ試験ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ之ヲ本人ニ通知シ其及第者ニハ併セ



テ認定證書ヲ附與ス

第九條第二項ノ卒業證書及第十條ノ證明書ヲ所持スル者ハ一般ノ徵兵ト同時ニ身體ノ検査ヲ爲シ其合格者ニハ認定證書ヲ附與ス但第十條ノ證明書ヲ所持スル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ附與スヘシ

第十五條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル人名書ハ旅團長ヨリ大隊區徵兵官ニ送付ス可シ

第十六條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十七條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ十一月三十日限り第二條第三條第六條第二項ノ費用ヲ部隊ニ納ム可シ

第十八條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年回リト爲リタルトキハ本籍所管大隊區徵兵官ニ届出可シ

第十九條 一年志願兵入隊スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下同シ之ヲ部下某中隊ニ編入シ該中隊長ヲシテ教育ニ任セシム

第二十條 一年志願兵軍事學ノ教授ハ聯隊長部下大尉若クハ中尉ノ内一名ヲシテ之ヲ掌ラシム

第二十一條 一年志願兵ノ教育及軍事學ノ教授ニ就テハ聯隊長其實ニ任スルモノトス

第二十二條 一年志願兵ノ勤務及服裝ハ一般ノ兵卒ト異ナルコトナシ但營中雜役ヲ免シ又

被服ニ特別ノ徽章ヲ附ス

室内其他諸物品ノ掃除及馬匹馬具等掃拭ノ爲メ兵卒ヲ使役スルコトヲ得但馬匹馬具等ノ掃拭ヲ習得スル爲メニハ自ラ之ヲ爲スヲ要ス

第二十三條 一年志願兵中勤務ニ熟達シ且品行方正ニシテ豫備士官ノ教育ヲ授クルニ堪フ可キト認ムル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後上等兵トナシ特別ノ教育ヲ授ケ下士ノ勤務ヲ爲サシム

第二十四條 上等兵ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際聯隊長ハ一年志願兵終末試験委員ヲシテ學科及實地上ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長步兵ハ旅團長ヲ經テニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス

終末試験ニ落第シタル者ハ二等軍曹ニ任シ若クハ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス

第二十五條 醫學藥學又ハ理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生又ハ志願獸醫生ト爲リ各專門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志望ノ者ハ入隊ノ際學校ノ卒業證書ヲ以テ其由ヲ申立可シ

獸醫學卒業證書ヲ所持シ志願獸醫生タランコトヲ志望スル者ハ第三條ノ納金ヲ爲スニ及



第二十六條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ヲ命スルニハ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長獸醫長ヨリ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ請フ可シ

第二十七條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモ  
ノトス

第二十八條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長一年志願兵終末試験委員ヲシテ實地ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長ニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編入ス

終末試験ニ落第シタル者ハ曹長若クハ軍曹相當官ニ任シ豫備役ニ編入ス

第二十九條 近衛都督又ハ師團長ハ一年志願兵終末試験委員ヲ組織シ及其試験ノ方法ヲ定

第三十條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年ノ十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

第三十一條 戰時若クハ事變ニ際スルトキハ一年志願兵ト雖モ一般ノ兵卒ト同シク服役セシム

附則

第三十二條 明治二十二年ニ限り第九條ノ願出期限ハ三月十五日迄トス

第三十三條 第二條第三條ノ納金額ニ變更ヲ要スルトキハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

○陸軍一年志願兵條例施行細則 二十二年三月四日 陸軍省令第三號  
陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通定ム

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 條例第二條ノ所屬部隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品ハ左ノ如シ

- 一 第一種帽 前立共
- 二 第二種帽
- 三 絨衣袴
- 四 小倉衣袴
- 五 夏衣袴 二着
- 六 日履
- 七 外套
- 八 脚絆
- 九 第一種手蹠
- 十 背囊 履具共
- 十一 飯盒
- 十二 水筒

第二條 條例第三條ノ馬匹ニ係ル一切ノ費用トシテ納メシムル費目ハ左ノ如シ

一 荔枝癩瘰癧費

第六類 第三章 陸軍志願兵



二 裝鐵別毛費

三 馬寮費

第三條 居室及食餌自辨ノ者行軍若クハ野外ニ於テ演習ヲ爲ストキハ部隊ヨリ食餌ヲ給シ實費ヲ以テ其代價ヲ辨償セシ

第四條 條例第六條第二項ノ武器及屬具ノ修理費ハ金九圓トス

第五條 條例第九條ノ願書及承認書ハ附錄第一第二第三第四様式ニ依リ認メ本籍ノ島司又ハ郡市長ニ差出ス可シ

第六條 條例第九條ノ證明書ハ附錄第五第六様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第七條 條例第九條ノ卒業證書ハ其寫ヲ差出ス可シ

第八條 條例第十一條第二項ニ依リ師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定ムルト同時ニ検査所設置ノ場所ヲ定メ府縣知事ニ通達

シ府縣知事ハ其時日及場所ヲ管内ニ告示ス可シ

第九條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ニシテ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ陸軍醫官其合格ト不合格トヲ判定シ且不合格ノ者

ニ十歳未満ノ者ヲ除クハ永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キ者トヲ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ差出シ

師團長ハ之ヲ本人居住地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ

第十條 旅管徵兵官ハ前條ノ書類ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ處分ヲ爲シ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ體格検査表

ヲ大隊區徵兵官ニ送付シ大隊區徵兵官ハ該検査表ニ依リ徵集延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地

ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十一條 條例第十一條第二項及第十二條ノ身體検査並學術試験ニ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス

前項ニ當ル者ハ旅團長ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十二條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附錄第七様式ニ依リ作ル可シ

第十三條 官費ヲ以テ服役セシムヘキ者ニハ旅團長附錄第八様式ニ依リ官費服役許可狀ヲ作リ本人ニ附與ス可シ

條例第八條ニ依リ次年同シト爲スヘキ者ハ許可狀ノ裏面ニ其事由ヲ記載ス可シ

第十四條 官費ヲ以テ服役セシム可キ者ヲ各隊ニ配付スルニ方リ理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ近衛又ハ

師團監督部所在地ノ歩兵隊ニ配付ス可シ

第十五條 條例第十四條ニ依リ身體ノ検査ヲ受ク可キ者ノ氏名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官ニ達シ大隊區司令官ハ之ヲ島

司又ハ郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及其場所ヲ管内ニ告示ス可シ

大隊區徵兵署又ハ検査所ニ出頭シ難キ事故アル者ハ願シ他ノ大隊區徵兵署若クハ検査所若クハ旅管徵兵署ニ於テ

身體ノ検査ヲ受クルコトヲ得但許可ヲ受ケスシテ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス

前項但書ニ當ル者ニシテ寄留ノ者ハ大隊區司令官ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十六條 大隊區徵兵署若クハ検査所ニ於テ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ大隊區司令官合格ヲ區別シ検査報告書ヲ

作リ之ヲ旅團長ニ差出ス可シ

身體ノ検査ニ合格セサル者ニ十歳未満ニシテ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ旅管徵兵官免役ノ處分ヲ爲シ其一時服役ニ堪ヘ

難キ者ハ大隊區徵兵官徵集延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ

通知ス可シ

第十七條 身體ノ検査ニ由リ本人志望ノ兵種ニ適セサルモ他ノ兵種ニ適ス可キ者ハ更ニ他ノ兵種ヲ志願スルコトヲ得

第十八條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル者ハ旅團長ヨリ自費服役官費服役次年同シ等ヲ區別シ其人名書ニ體格検査

表ヲ添ヘ當該旅團長ヨリ大隊長以下同シニ送付シ又其人員ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十九條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ旅團長ニ届出可シ

第二十條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ヲ生シ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ

添ヘ入隊ノ延期ヲ旅團長ニ願出可シ

其事故十二月二十日迄ニ止マステ入隊セサル者ハ旅團長之ヲ次年同シト爲シ聯隊長及本人ニ通知ス可シ



第二十一條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ旅團長ヨリ其人名ヲ旅團長ニ通知ス可シ

第二十二條 條例第三十條及本則第十九條第二十條第二項ニ當ル者官費服役者ナルトキハ旅團長ハ條例第八條ニ依リ次年同シト爲シタル者ヲ繰上ケテ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得但入隊ヲ命シタルトキハ其人名ヲ旅團長ニ通知ス可シ

第二十三條 一年志願兵ハ入隊ノ當日願法式及宣誓式ヲ行フモノトス

第二十四條 (二十二年十二月四日陸軍省令第十七號ヲ以テ別除)

第二十五條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生志願藥劑生志願獸醫學生志願醫學生ト爲リ各専門ノ勤務練習ヲ志望スル者ハ該隊長ヨリ各自ノ卒業證書ヲ添ヘ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長ニ通牒シ監督部長軍醫長獸醫長ハ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ受ケ後半ノ初ニ於テ該隊長ヲ經由シ之ヲ命ス可シ

第二十六條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生ト爲シタル者ハ近衛又ハ師團監督部長ニ志願藥劑生ト爲シタル者ハ近衛成病院ニ派遣シ勤務ヲ練習セシム

第二十七條 志願軍吏生ノ教育ハ近衛又ハ師團監督部長志願藥劑生ノ教育ハ該隊二等軍醫正志願藥劑生ノ教育ハ近衛成病院長志願獸醫學生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫各其責任スルモノトス

第二十八條 條例第二十三條及第二十六條ニ依リ上等兵及志願軍吏生志願藥劑生志願獸醫學生ト爲シタル者ハ將校集會所ニ於テ將校ト會食セシムルコトヲ得

第二十九條 志願軍吏生志願藥劑生志願獸醫學生ト爲シタル者ハ武器及屬具ヲ返納セシメ更ニ徒手刀ヲ給ス可シ

第三十條 一年志願兵滿期ニ先タテ近衛都督又ハ師團長ハ條例第二十九條ノ終末試験委員ヲ組織ス可シ

第三十一條 終末試験委員ハ各隊各部毎ニ上長官一名士官若干名ヲ以テ組織ス可シ但獸醫部ニ在テハ士官若干名ヲ以テ

組織ス可シ

第三十二條 條例第二十四條第一項第二十八條第一項ニ依リ豫備役ニ編入ス可キ者ハ該隊ヨリ其兵籍ヲ本人居住地ノ大隊區司令部ヘ送致シ其他ハ本籍地ノ大隊區司令部ヘ送致ス可シ

第三十三條 條例第二十四條及第二十八條ノ一年志願兵終末試験及第證書ハ附錄第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ作ル可シ

第三十四條 一年志願兵中豫備士官ノ教育ヲ授クルニ堪ヘスト認ムル者ハ下士ト爲スノ教育ヲ授ケ適任ノ者ハ服役滿期ノ際上等兵ト爲レ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス

第三十五條 服役中ノ費用自辨ノ者入隊後禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ疾病傷痍ニ依リ現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金ヲ還付ス

第一様式

一年志願兵服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ服役中ノ費用全部ヲ自辨シ何兵何聯「大」隊又ハ何聯「大」隊ニ於テ一箇年間現役ニ服シ度志願ニ候間「學術」試験ヲ受ク可キ者ハ「學術」御試驗ノ上「ノ」七字ヲ記入ス可シ認可相成度別紙某學校卒業證書(某學校長ノ證明書)戶主(家族)ノ承認書相添此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住

第六類 第三章 陸軍志願兵

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留  
華(士)族(平民)  
氏 名 印  
年月日生  
旅團長爵氏名殿

第二様式

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シ度



志願ニ候處服役中ノ費用全部自辨ス可キ資力無之候ニ  
付居宅及食餌(武器及屬具ノ修理費)ヲ自辨仕候間、學術  
驗ヲ受ク可キモノハ「學術御試」其他ハ官費ヲ以テ服役  
驗ノ上「」ノ七字ヲ記ス可シ  
ノ儀御認可相成度別紙其學校卒業證書(其學校長ノ證  
明書)戶主(家族)ノ承認書相添此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

華(士)族(平民)

氏名印

年月日生

旅團長爵氏名殿

第四様式

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

戶主

氏名印

七百二十六

一年志願兵服役承認書

氏名

右私長男(孫)ニテ今般一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願  
ニ候處服役中ノ費用全部自辨ス可キ資力無之候得共居  
宅及食餌(武器及屬具ノ修理費金何圓)ハ無相違自辨  
(辨償)可致候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

戶主

氏名印

第三様式

一年志願兵服役承認書

氏名

右私長男(孫)ニテ今般一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願  
ニ候處服役中ノ費用金何圓無相違上納可致候也

第五様式

身元證明書

氏名

右ハ刑ニ處セラレタルコトナク(何々ニ依リ罰金何圓  
ニ處セラレタルコトアリト雖モ禁錮以上ノ刑ニ處セラ  
レタルコトナク)且其戶主(本人)何々<sup>記名</sup>何々<sup>記名</sup>何々<sup>記名</sup>  
ヲ有シ是ヨリ生スル潤益年額若干金<sup>記名</sup>何々<sup>記名</sup>無<sup>記名</sup>若干  
ヲ有シ其他官廳ヨリ受クル俸給(何會社「商社」ヨリ受  
クル給料)年額何千圓(何々ノ所得年額何千圓)有之候  
者ニ付一年志願兵服役中ノ費用全部ヲ自辨シ得ルコト  
ヲ證明ス

年月日

府(縣)島司郡(市)長氏 名印

第六様式

身元證明書

氏名

右ハ刑ニ處セラレタルコトナク(何々ニ依リ罰金何圓

第六類 第三章 陸軍志願兵

第七様式

第 號

府(縣)族籍

氏名

年月日生

右陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定シ何兵  
何聯「大」隊ニ於テ服役スルコトヲ許可ス(命ス)

七百二十七

用紙厚紙



年月日

職階位階氏名

印

欄花紋

用紙厚紙

第八樣式

府(縣)族籍

名

年月日生

右居宅及食餌(武器及屬具ノ修理費)ノ外官費ヲ以テ陸軍一年志願兵トシテ服役スルコトヲ許可ス

年月日

職階氏名印

第九樣式

七百三十八

七寸八分 用紙鳥ノ子紙

五寸六分

第 號

陸軍歩兵上等兵

氏 名

右一年志願兵

終末試驗ニ及

第 ス

年月日

職位階氏名

印

○試補及判任官見習ニテ一年志願兵トナル者服役方 二十二年三月二十五日 閣令第十一號

試補及判任官見習ニシテ一年志願兵トナル者ハ在職ノ儘服役スルコトヲ得 但服役時日ハ實務練習ノ期限ニ算入セス有給者ニハ俸給ヲ給セサルモノトス

○陸軍志願兵身體検査規則 二十二年三月二十八日 陸軍省達第三十九號

陸軍志願兵身體検査規則別冊之通定

別冊

陸軍志願兵身體検査規則

第一條 身體検査ノ要ハ合格ト不合格トヲ區別スルニ在リ而シテ醫官ハ此検査ヲ行フ爲メ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 醫官ハ一日志願兵概子四十名 助手アルトキハ概子六十名ヲ検査スヘシ其検査ニ要スル器械ハ陸軍病院備付ノモノヲ使用ス

第三條 志願兵ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ  
滿十七歳以上十八歳未滿 四尺九寸以上  
滿十八歳以上 五尺以上

第四條 徵兵検査規則第四條及第五條ハ此規則ニ於テ之ヲ適用ス

第五條 身體検査ノ順序ハ概ネ左ノ如シ但シ志願兵志願者ヲ徵兵署若クハ徵兵検査所ニ於テ検査スルトキハ第一項第二項第三項第四項ハ地方徵兵醫員ニ分擔セシムルコトヲ得

一 志願兵ヲシテ踵ヲ測尺柱ニ當テ、直立セシメ其身長ヲ測定シ次ニ尺帶ヲ取り兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ周匝シ尋常ノ氣息ヲナサシメテ胸圍ヲ測リ、細テ最強ノ呼吸ヲナサシメ其縮脹ノ差ヲ測ル

二 「スチルレン」氏視力表ヲ場内ノ壁上ニ掲ケ二十尺ノ距離ニ志願兵ヲ立シメ初メ各偏眼ノ視力ヲ次ニ兩眼合體ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨色力ヲ檢ス

三 頭首脊椎四肢諸關節ノ屈伸内外轉回轉ノ諸運動ヲ檢ス

四 頭頸顔面眼耳鼻咽喉耳頸胸肋腋窩上肢ノ前面及其兩側腹肚陰部下肢ノ前面及其兩側項背腰臀股肛門四肢ノ後面ヲ檢ス

五 其任所氏名年齢等ヲ問ヒ應答ノ問答語精神及聽官ノ機能ヲ試ミ次ニ其體格一般ノ強弱健否ヲ判別シ體格ノ等級ヲ定ム

第六類 第三章 陸軍志願兵

七百三十九



















第九條 歸休兵在郷中兵籍上異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ

第十條 歸休兵在郷中七日以上ノ旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ其由ヲ監視區長ニ届出可シ

第十一條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス

對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此場合ニ於テハ第十條ノ例ニ依ル可シ

第十二條 歸休兵在郷中死亡又ハ失踪シタル者アルトキハ其親族ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

第十三條 歸休兵在郷中重罪輕罪<sup>罰金ヲ</sup>ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其親族ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

第十四條 歸休兵召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痍疾病其他ノ事故ニテ歸營シ難キトキハ傷痍疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ監視區長ニ届出可シ

第十五條 本條例中兵ト稱スルハ徵兵令ニ依リ徵集シタル雜卒職工ヲ包含ス

第十六條 警備隊諸兵ニシテ定期退營シ又ハ輜重輸卒ニシテ退營シ尙ホ現役中ニ在ル者ハ

總テ本條例ニ依ル

第十七條 第七條第九條第十條及第十一條第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十八條 第七條第十條ノ通報人ニシテ正當ノ事由ナク召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者及第十一條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十九條 本條例中大隊區司令官トアルハ警備隊區ニ於テハ警備隊區司令官監視區長トアルハ警備隊區副官監視區トアルハ警備隊區トス

附則

第二十條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フ可シ

○陸軍軍人休暇規則ヲ制定シ十八年達乙第百十三號達ヲ廢止ス<sup>二十一年六月二十八日</sup>

陸軍軍人休暇規則別冊ノ通制定セラル  
但十八年達乙第百十三號達ハ廢止ス

(別冊)

陸軍軍人休暇規則

第一條 軍人ノ休暇ヲ分テ二トス

一 賜與休暇

二 請願休暇

第六類 第三章 陸軍歸休兵



第二條 賜與休暇ヲ分テ三トス

- 一 憂期休暇
- 二 慰勞休暇
- 三 褒賞休暇

第三條 賜與休暇中ハ歸省旅行等ヲナスハ各自ノ隨意タリト雖トモ准士官以上ハ其行先ヲ必ス長官ニ届出ヘシ  
 下士以下ニ在テハ歸省旅行外泊等ハ許可ヲ得免許証及ヒ宿泊證書ヲ携帶スヘシ但慰勞休暇ハ歸省旅行外泊等ヲ許サ、  
 ルモノトス

第四條 憂期休暇ハ毎年七月上旬ヨリ九月下旬マテノ間ニ於テ勤務ニ差支ナキ者ニ之ヲ賜フ

第五條 憂期休暇ノ日限ハ准士官以上ハ三週日以内下士ハ二週日以内諸卒諸職工等ハ一週日以内トス

第六條 憂期休暇ハ隊附下士並ニ在隊ノ卒ニハ賜與セス

第七條 憂期休暇ハ隊附准士官以上ハ隊長其隊長ニ在テハ都督師團長 步兵聯隊長ハ旅團長 旅團長ハ都督師團長 無隊准士官以上ハ其長官同下  
 士以下ハ所屬長ノ許可ヲ得テ爲スモノトス但制限ノ日數ヲ期內ニ於テ一回若クハ數回ニ分テ申請スルコトヲ得

憲兵隊教導團ノ諸隊ニ在テモ本條隊附ノ例ニ準ス

第八條 慰勞休暇ハ隊附下士以上並ニ在隊ノ卒ニ與フルモノニシテ左ノ項目ニ依ル

- 一 特別ノ勤務ニ服シ或ハ演習等ノ爲メ數日山野ヲ跋渉シ其勞多キ者及ヒ新兵ノ教育ヲ完了シタル等ノ如キ者ニハ聯  
 隊長及ヒ獨立大隊長ハ將校下士卒ニ五日以内大隊長ハ下士卒ニ三日以内中隊長ハ兵卒ニ一日ノ休暇ヲ與フルコト  
 ヲ得
- 二 休暇ヲ與ヘタル下士卒外出スルトキハ外出免許札ヲ附與スヘシ但一部隊ニ與フル時ハ免許札ヲ與フルコトナク命  
 令ヲ以テ之ヲ與フヘシ

第九條 褒賞休暇ハ隊附下士並ニ在隊ノ卒ニ與フルモノニシテ左ノ項目ニ依ル

七百五十一

第六類 第三章 陸軍歸休兵

- 一 行狀方正勤務勉勵學術技藝ニ熟達シ概ネ二百五十日以上晉勳ニテ休養セシ日數ヲ除キ其前後ヲ通算スルモノトス
- 二 行狀方正勤務勉勵ニシテ且ツ學術或ハ技藝ニ熟達シ衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ中隊長褒賞トシテ一箇月二一日  
 ノ休暇ヲ許スコトヲ得又聯(大)隊本部ノ下士ニ在テハ聯(大)隊長之ヲ許スモノトス
- 三 第一項ノ休暇二日以上ニ及フ者歸省他行又ハ外泊ヲナストキハ日給ハ勿論食料ヲモ之ヲ與フルモノトス但癩病等  
 ニテ延日ヲ願フトキハ其延日間ノ日給食料ハ之ヲ與ヘス
- 四 歸省他行及ヒ外泊ヲ許スハ一時ニ各中隊ニ在テハ五名聯隊本部及ヒ大隊本部ニ在テハ之ヲ合シ三名迄ヲ限リトス
- 五 第一項ノ休暇ヲ與ヘタル者ニハ左式ノ免許証一例ヲ示ス 附與シ歸省他行ヲ許シタル者ニ與フル證書ノ裏面  
 ニハ本則第十六條ニ示ス休暇免許証ノ文例ニ倣ヒ物品金貨ヲ記入スヘシ

(何ノ字及△ハ米)

步兵第何聯隊第何中隊  
 △官(卒) △何 某

何日間褒賞休暇免許証  
 △聯隊印

△聯隊長官 △何 某印

此免許証ハ何年何月何日何時ヨリ何  
 年何月何日何時マテ褒賞ノ爲メ休暇ヲ  
 與フルノ證ニシテ此休暇中別シテ陸軍  
 ノ法令ヲ遵奉シ常ニ行狀方正ナルヘ  
 シ  
 此免許証ハ自己ノ名譽ヲ表スルモノナ  
 レハ休暇後ト雖モ猶ホ之ヲ所持スヘシ  
 何年何月何日  
 △中隊長(聯) 隊副官(官) 何 某印